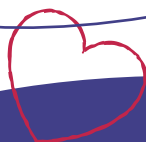
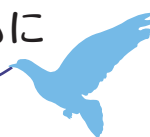




Social Welfare Foundation YOFUEN

仁・愛・心 時代とともに 地域とともに



社会福祉法人 陽風園 創立140周年記念誌



私たちの信条

一、私たちは、先人から受け継いだ仁愛の精神に則り、その伝承者として奉仕の誠を捧げます。

一、私たちは、福祉の崇高なる使者として、世のため、人のため、園のため、顕愛の念に努めます。

一、私たちは、和を貴び、信を奉じ、協調融和と友情の輪の中で奉仕の任を果します。

一、私たちは、対話こそ奉仕の原点であることを肝銘し、対話を以って第一義とします。

一、私たちは、「陽風一家」「公序良俗」の美風のもと、心を一にし、奉仕の業にいそしみます。

陽風讃歌

作詞 安田 隆明
作曲 中村 外治

一、朝は小鳥と共に起き
清く明るく朗らかに
今日も元気を胸に秘め
五つの信条合言葉
歴史に輝く 陽風園

二、山と川と街並みに
緑と花に風薫る
今日も楽しく笑顔の集い
五つの信条合言葉
奉仕の館 陽風園

三、住まいと共に この縁^{えにし}
心やすらぎ すこやかに
今日も出逢いを大切に
五つの信条合言葉
使命に燃える 陽風園



ご挨拶

歩み続ける仁愛の道 紡ぎ続ける幸せの絆 真心と優しきで積み重ねた百四十年

理事長 古田 秀一

陽風園は、園祖小野太三郎翁の創始以来、社会福祉事業一筋に百四十年の歩みを続けてきました。この間、誠に多くの皆様方が当園にお心を寄せてくださり、あたたかいご支援を賜って参りました。職員一同、深く感謝を申し上げます。

現在、当園は地域福祉の拠点施設としての責任と誇りを持って、救護施設、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、障害者支援施設、保育所等々の施設を運営するほか居宅生活支援事業なども実施しています。

幸いこれを支える職員には、私財を投げ打って窮民救済にその生涯を捧げた園祖の遺志である「仁愛の精神」が脈々と受け継がれ、利用者一人ひとりの心に寄り添って、真心と優しきで尽くすことが実践されています。そして、利用者の皆様には「心穏やかに楽しく過ごし、笑顔で暮らす」、職員は「明るく、元気に、笑顔で尽くす」を合言葉に幸せ溢れる施設づくりに努めています。

加えて、利用者の皆様が安全で安心して暮らすことができる快適な環境を整えるため、平成28年度の完成を目標に本園施設の改築五カ年整備事業を進めているところでもあります。

この度、創立百四十年の佳節に当たり温故知新、当園の過去、現在、未来をテーマとした記念誌を編纂いたしました。

陽風園に今ある良き歴史も伝統も、先人達が時代の求めに呼应し、常に新しい営みを加えながら日々の努力を積み重ね築いてきたものであります。今後とも、福祉サービスの担い手である職員一人ひとりの確固たる技術と高みを目指す創造力により、時代が求める福祉サービス、社会が求める福祉サービスの要請に迅速かつ的確に応え、質の高い、きめ細かな福祉サービスを心を込めて提供して参ります。

同時に、社会福祉法人として、制度に囚われず先駆的、開拓的な事業を模索した社会福祉事業の原点に戻り、今地域のために何が出来るかを常に問い続け、公益的な事業にも積極的に取り組みながら社会のセーフティネットとしての使命を果たす所存であります。

そして、私達は明日の陽風園のあるべき姿に思いを馳せながら、時代とともに地域とともに、その名のとおり心温まる陽風を社会に送り続ける福祉の担い手として、信頼性の高い社会福祉法人であり続けたいと強く願っております。

どうぞ、今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。



創立140周年を祝して

石川県知事 谷本 正憲

陽風園が創立140年の節目を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。

陽風園の歴史は、明治6年に故小野太三郎氏が私費を投じて民家を購入し、貧しい方々に開放して、その救済にあたったことがはじまりと聞いております。以来、北陸三県で最大規模を誇る特別養護老人ホームをはじめ、障害者支援施設、保育園等、幅広い分野にいち早く取り組み、140年の長きにわたり、時代の要請に応えながら、石川県における社会福祉の先駆的役割を担ってられました。

現在では、子どもからお年寄りまで1000人を超える方々に対する入所や通所のサービスを提供されるなど、地域になくてはならない存在となっております。

こうした陽風園の歴史は、まさに社会福祉における石川県の歴史と申し上げても過言ではなく、これもひとえに古田理事長をはじめ歴代役員ならびに職員の皆様のご尽力の賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

さて、団塊の世代の皆様が、あと10年もすれば75歳以上の後期高齢者に移行していく中、今後益々、介護ニーズが高まり、これまで以上に質の高いサービスの提供や福祉人材の育成といった対応が求められております。

また、介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らすことができるよう、介護・医療・予防・生活支援・住まいが一体的に提供される体制を構築していくことが重要となっております。

こうした中、陽風園においては、金沢市三口新町の本園施設において、利用者が安心して快適な暮らしができる環境を整えるため、平成23年度から施設の全面的な建て替えを計画的に進められております。また、外部講師を招いた職員研修や資格取得支援により、福祉サービスを支える人材の育成を図るなど、まさにハード・ソフト両面において、今後の社会福祉ニーズの多様化・高度化に向けて、きめ細かく取り組まれております。

長年にわたり在宅から施設サービスまで幅広く提供してこられた実績と、その間に積み重ねてこられた介護に関する高度な知識・技術を有しておられる陽風園には、今後とも、社会福祉のリーダーとして重要な役割を担っていただくことを大いに期待しているところであります。

県といたしましても、引き続き、社会福祉の充実に取り組んでいくこととしておりますが、そのためには、行政だけではなく、地域の介護現場の第一線で活躍されている陽風園をはじめとする社会福祉関係団体等の皆様と連携しながら力を合わせて進めていくことが必要であり、関係の皆様のご協力をお願いする次第であります。

最後になりましたが、陽風園におかれましては、この創立140年を一つの節目として、石川県の地域福祉の向上にこれまで以上に大きな役割を果たしていただくことを、改めて期待申し上げますとともに、今後益々のご発展を心から祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。



陽風園創立140周年に寄せて

金沢市長 山野之義

社会福祉法人「陽風園」が創立140周年を迎えましたことに、心からお祝いを申し上げます。

140年と申しますと、全国の民間社会福祉施設としては最も長い歴史を有することとなり、この間、歴代理事長様をはじめ職員の皆様が連綿と受け継いでこられた仁愛の精神のもとで、日々、地域福祉の向上にご尽力いただいていることに深く敬意を表する次第であります。

明治6年、小野太三郎氏が私費を投じて購入した住宅を貧しい人々に解放し、その救済にあたったことに始まり、救護施設、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、障害者支援施設、保育所など、社会情勢や生活環境の大きな変化の中にあっても、時代の要請にしっかりと応え、開設・運営され、本市の社会福祉事業全般において幅広くご貢献いただいていることに心から感謝を申し上げます。

本格的な高齢社会の進行に伴い、75歳以上の高齢者が急増するとともに、単身や夫婦のみの高齢者世帯が増加するなど地域社会や家族のあり方が大きく変容していく中で、高齢者一人ひとりが尊厳を保ち、安心して暮らすことができる地域づくりをいかに実現していくかが問われています。

本市におきましても、在宅福祉の充実に加え、介護・医療・住宅支援・住まいなどが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築に向け、なされる限りの努力を払ってまいり所存でございますので、引き続き、変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、現在進められている陽風園本園改築整備事業及びこの度発刊された『陽風園創立140周年記念誌』が、新たな歴史の一步となり、社会福祉法人「陽風園」が、今後ますます発展されますようお祈り申し上げます、発刊にあたってのお祝いのことばとします。

目次

私たちの信条・陽風讃歌

ご挨拶 理事長

古田秀一

祝辞

石川県知事

谷本正憲

金沢市長

山野之義

あゆみ — 過去を想う —

仁愛に生きる

園祖を支えた二人

今田興三松

歴代理事長略伝

陽風園140年のあゆみ

愛と感謝のわだち

園祖小野太郎の足跡を偲ぶ

あゆみ — 現在を見つめて —

施設紹介

向陽苑崎浦

向陽苑木曳野

万陽苑

あゆみ

— 過去を想う —

第二万陽苑

第三万陽苑

陽風園地域福祉プラザ

三陽ホーム

ハビリポート若葉・若竹

あけぼの作業所

みずき保育園

事務局・診療所

給食課

陽風短歌

叙勲・褒章受賞者一覧

あゆみ — 未来に向かって —

(座談会) 生き生きフォーラム

未来への提言

本園改築整備計画

資料編

陽風園概要

理事・監事・評議員一覧

組織図

案内図

あとがき

水運の町・中堀川町に生まれる

天保11年（1840）2月17日（旧暦1月15日）、金沢の中堀川町（現・金沢市堀川町）で、小野太三郎は誕生した。また、一説によると、越中（富山県）の小野在を出生地とする説もある。父は加賀藩士の八十八（弥三八とも）、母は静（千代とも）。八十八は、測量の際、鎖や車を引くもの・間縄や間竿を取り扱う割場附小者という軽卒であった。太三郎が育った中堀川町は、粟崎・大野の港から、水運で金沢へ荷物を運ぶため、元和のころ浅野川を掘り開いたことから、このあたり一帯を堀川と呼び、大いに賑わっていた。

幼い頃の太三郎は、いわゆるいたずらっ子で、朝から日暮れまで元気に遊び、伸びやかに日々を過ごしていた。母の教えからだろうか、いつの間にか読み書きができるようになった太三郎は、たまたま読んだ院本忠臣蔵の大序の中の「嘉肴^{かこう}ありといえど食せざれば其味を知らず（聖人の道も学ばなければ、その良さが分からない。まず実践することの必要を教えたもの）」という一節に心を揺さぶられた。

早速、儒教の経書の書物を総称した四書の経

目に奇跡的に治癒した。再び、目が見えるようになった太三郎は、城下に盲人が多くいることに気付き、これまで貯めてきたお金を商人に預け、その利子を盲人たちに配るよう手配した。

自宅を開放し、救済活動を開始

元治元年（1864）、藩内で飢饉が発生し、飢えや病に苦しむ人々に私財を施していた。と同時に、中堀川町の自宅を開放し、困っている人々への救済活動を開始した。最初は、太三郎一人で世話をしていたが、周りの人たちが見かねて妻を世話した。嫁いだ女性が太三郎の良き協力者となる島谷センで、1865年の太三郎25歳の時だった。

明治維新（1868年）後、加賀藩が行っていた困窮者を救う撫育事業^{ふいく}が停止してしまい、巷に多くの困窮者が溢れてしまった。太三郎が33歳になった明治6年（1873）。目の不自由な人のために、木ノ新保（現本町）に家屋1棟を購入し、20数名を救済する。この家屋はすぐに困窮者でいっぱいとなり、隣家も購入して100人近い人が収容された。その6年後の明治12年には、彦三町に6棟の家屋を私財450円を投



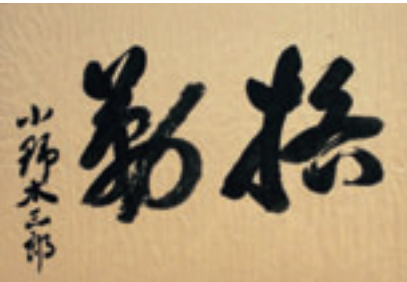
共潤会が発行した『小野君慈善録』（明治23年）



彦三二番丁時代の小野救済所地図



小野太三郎を題材とした連載（北國新聞、明治28年9月）



太三郎直筆の書「格勤」



藍綬褒章



褒章記

園祖・小野太三郎の慈愛溢れる生涯

仁愛に生きる

典餘師（江戸時代後期の漢籍独学ブームを引き起こした大ベストセラー）を購入。何度も読み返し、暗唱するまでになり、身をもつて実行する『実践躬行^{じっせんきやうこう}』に自分の行く道を見出した。

11歳になった太三郎は、近江町市場で年を経た巨大な海亀が衆人から崇められ銭を雨のごとく投げ与えられる一方、近くにいた行き倒れ寸前の老人には何の関心も払わない様子を目の当たりにした。太三郎は老人に何かを与えようとするものの、何も持たない自分に愕然とし、涙を拭って市を離れた。この時、初めて困っている人を救いたいという気持ちが生え、以後、儉約していずれは慈善に使おうと蓄財に励むようになった。

13歳になり、小野家の家督を継ぎ、卒方小物組として加賀候に仕えた。ある日、犀川の急流で泳ぎながら魚を手づかみし、それを小物仲間に分ける舞った。これが評判を呼び、御膳方となつて饗宴用の料理などに腕を振るったほか、大工や壁工、彫刻などにも才能を見せていた。何年もの間、食費を切り詰める儉約の無理がたたり、16歳には白内障を患い、目が見えなくなってしまう。どんな治療も効果がない中で、野町神明宮で祈願を続けてついに100日

げ出して購入し、さらに困窮者の受け入れと救済を拡大していった。

慈善家として藍綬褒章を受賞

太三郎は決して名誉や名声、何らかの見返りを求めている行動でないのは、次のエピソードからも窺い知れる。明治11年（1878）に明治天皇が北陸を巡幸したおり、太三郎の功績を天皇の随行員が調べに来たが、会おうとせずに家に戻らずに数日間隠れてしまったという。それでも太三郎の無私の行動はやがて天皇の耳にも届き、明治18年に慈善家の受賞第1号として藍綬褒章を受賞した。それ以降も身をすり減らすように困窮者を救済してきたが、明治32年11月に連れ添ってきたセンが病死。病人の世話や炊事、洗濯と休む間もなく働き、太三郎を陰に陽に支えてきたセンを亡くした太三郎の茫然自失ぶりは甚だしく、『日本之下層社会』を記したジャーナリスト横山源之助が発表した文章の中に「老は極めて快活の人なりき興に乗せば謡曲を謡い義太夫を語ることあるは人の知る所なり今日の老に於いては斯の如く『快活』『無邪気』『子供らしき』は殆ど見るに能わざるなり」と記しているほどだ。

「人は可愛くてなりません」

太三郎が立ち直るのにはしばらく時間がかかったようだが、それでも困窮者の世話から仕事の指導・斡旋、亡くなった人の埋葬などに、ひたすら打ち込んでいた。そんな太三郎の様子は、明治43年（1910）に内務省地方局が発行した『感化救済小鑑』という冊子の中で紹介されている。意識すると、40年余り1日も欠かさず、太三郎は慈善院で寝起きし、皆と一緒に食事やお風呂も共にするほどの親切さに、皆は太三郎を赤ちゃんに対する慈母のごとく感じているとしている。太三郎がなぜここまで慈善事業に全身全霊を傾けることができたのか。その答えの一つが、明治30年6月21日付けの北國新聞の『人の噂』と題するコラムの中で見つけることができる。インタビューに答えた太三郎は、「私は人ちう人は其善悪問はず何れも可愛くてなりません」と話しており、人に対して分け隔てなく接し、比類なき優しさを持っていたことが分かる。

社会の近代化が一層進む中、慈善事業も社会福祉という近代化への道を歩んでいた。不定期の寄付やわずかな生産で300人を超える困窮者の救養活動は苦しい状況が続く中、太三郎は

邸を出て、慈善院の掃き清められた前庭に据えられ、棟岳寺住職らが回向。並みいる収容者は情け深かった太三郎の生前を偲んで悲しみに沈み、中には泣き沈む人もいた。

午後1時に葬列は出発。白張りの提灯2台を先頭に練り出し、寄贈の花車や花籠は百数十台に達し、先頭が橋場町に曲がる頃には最後尾はまだ天神橋上にあるほどの長い列となり、それを一目見ようと群衆が二列三列と雪崩を打つかのようにつめていた。

檜の破風造りに定紋を付けた霊柩を白色雑色の輿丁数人が担いで歩いた葬列が、砂塵を立てずうねりうねりて徐行する様は、華やかなであつたが、何となく沈みがちな悲哀の色を浮かべていた。葬列は、並木町から尾張町を経て、大手町を曲がり、尻垂坂を上り小立野の加賀藩主の菩提寺の宝円寺に午後2時過ぎに到着した。

葬式は、僧侶40人余りが両側に並び、宝円寺の増田雪巖住職を大導師、月照寺の村上住職を奠茶師、雲龍寺の高嶽寺住職を奠湯師となり、大回向を修した後、山森市長や渡瀬政禮、川島俊、曹洞宗寺院総代の放生寺・又邊住職が弔辞を朗読した。太三郎が門徒だったという越中西礪波郡五位山字小野（現・富山県高岡市福岡町）の西照



太三郎葬儀の様子



太三郎葬儀の様子



小野慈善院幼年部(作業所)



小野慈善院鳥瞰写真



小野慈善院建築時の様子



小野慈善院入口



特別展示のチラシ(金沢ふるさと偉人館)



太三郎葬儀の記事(北國新聞、明治45年4月9日)



太三郎葬儀の様子



小野慈善院幼年部



小野慈善院(診断室)



小野慈善院見取図

吐血するなどして病気がちとなり、自らの死後に身を寄せている困窮者のことを死んでも死に切れないほどに心配していた。

「小野慈善院」の初代院長就任

明治36年（1903）、小坂シゲが太三郎の元に嫁いできた。先妻のセン同様、物質的にも精神的にも晩年の太三郎を支えてくれた。近代化には官民一体となって進められ、明治38年、卯辰山常盤町に3100坪購入して、500坪の屋舎「小野慈善院」を竣工した。太三郎66歳の時で、持家を売却し移転した。翌年には財団法人となり、初代院長となった。太三郎は明治45年4月5日、73歳で死去するまで、シゲとともに小野慈善院で穏やかに暮らしていたという。

葬列は約4キロの長さに達する

葬儀が行われたのは太三郎死去から3日後の4月8日。その様子は翌9日付けの北國新聞の「慈善家の葬儀」という記事で詳らかに紹介されている。

要約すると、「太三郎の亡骸が入った霊柩は自

寺・小野世雄住職ら篤志の真宗住職が一遍のお経をあげて、葬式は終了した。

霊柩は、宝円寺を出て、大混雑の市中を縫いながら、長田の火葬場に着き、茶毘^{だび}にふした。

当日の会葬者は数百名に達し、「近來稀有の盛況を呈した」と伝えている。

受け継がれる「仁愛の精神」

私財を投げ打ってまで、窮民の救済に生涯を捧げ太三郎の遺志である「仁愛の精神」は、陽風園の理念として現代まで脈々と受け継がれている。その理念は「私たちの信条」として明文化され、陽風園で働く職員の行動規範となっており、福祉的支援を必要とする一人ひとりに仁愛の精神をもつて尽くすことが、日々実践されている。

園祖を支えた二人

～センさん、シゲさんの生涯～

小野太三郎の先妻センと後妻シゲ。

彼女たちは妻としてだけでなく、福祉の良き理解者として、また一人の同志として太三郎を支えた。

表舞台にはあまり登場しない二人に焦点を当ててみたい。



島崎セン

太三郎の最初の妻は島崎仙子という。仙子は弘化元年に生まれ、慶応元年、21歳で太三郎に嫁いだ（太三郎が窮民を元治元年に自宅に収容した次の年であり、嫁ぐなり収容者の世話をした）。非常に頭が良く、おとなしく、思いやりが深く、働き者で、太三郎には良き妻であった。

仙子は大変苦労した。古着・古道具を商い、窮民収容者の埋葬費や救養費のお金、米を求めるために寝食を忘れ、一日中かけずり回った。商売のお金も使い果たし廃業しようとした時、仙子は悩み、好みの食を断ち、粗衣をまとい、菓子・アメなどを背負って村々まで行商に歩いた。寒い時も、暑い時も、風や雨の時もやめることなく、十数年も続けた。このような内職

寝食忘れて窮民救済

と、救養者の炊事、洗濯に、病人の看護に全く休む暇もなかったのである。

このような仙子の二十余年間変わらずに苦労している生活を見ている町内の人々は、貞婦の鏡として称賛した。明治21年2月、中堀川町組合惣代飯田寛次郎氏及び医師浅地氏の上申によって、石川県知事岩村高俊君及び東本願寺法主大谷光勝師より賞与を受けている。

その後も、太三郎と苦難と栄光の夫婦生活を続けたのであるが、明治32年11月26日、病気のためその生涯に幕を閉じた。享年56歳であった。

〔小野太三郎伝〕より抜粋〕

太三郎を精神的に支える



小坂シゲ

妻センを亡くした太三郎は大変深い悲しみ寂しい思いをしたのであるが、後妻シゲ（繁）をもらうことによ

り精神的に支えられた。小野センとシゲの父親はいとこの間柄の近所付き合いで太三郎も小坂家へ頻繁に出入りしていた。先夫小坂與三右衛門が明治35年7月5日に没し、近所付き合いの二人が互いに連れ合いをなくしたので、すぐに太三郎はシゲを後妻に迎えた。シゲが太三郎のところに嫁いだ実際の年月は明治36年頃という。シゲは小坂家を廃家のうえ全財産を持って太三郎と婚姻したのである。

実際の届け出は7年ほど後の明治43年5月13日。小野シゲは太三郎のために財産を投げ出し、晩年の太三郎の世話をして太三郎の生活を支えた。小野救養所が経営難になり、小野慈善院となる苦難の時期に、シゲは太三郎の良き伴侶として救養者の世話をしたのである。最後に小野太三郎翁の葬儀の喪主となり、小野家の家督を相続し、昭和9年まで30年間、常盤町の小野慈善院で救養者の世話をしたのである。

〔『小野太三郎伝』より抜粋〕

陽風園を支えた女性たち

140年の歴史がある陽風園では、これまで多くの女性たちが活躍し、園を支えてきた。本項では、昭和40年代に勤務した方にインタビューし、当時の介護について語ってもらった。

❖ Y・Nさん

「陽風園の周りにはきれいな川が流れていて、洗濯の下洗いは川でしていましたよ。冬は寒かったですね」

❖ 加藤秀子さん

「昭和46年ごろの食事は皆さん同じものが出され、寮母がほぐして介助していました。当時は元気な利用者が多く、利用者が利用者の食事を食べさせてあげてね……今じゃ怒られますよね」

❖ 土居友子さん

「昭和45年のお風呂は、今のよう

陽風園に想う

浅井恒子

能登の輪島で生まれ育った私は、尋常科の3、4年生の頃だったと思う。「全員集合」の先生の声に講堂に集まった。

講堂には中年の小父さん風のひと、見馴れぬ小学生が10人程もいたであろうか。その人達の身なりは決して上等のものではなく、子供なんか私達より粗末なものを着ていた。

一番年長の小父さんが小野太三郎さんであり、小野慈善院に収容されている人達の気の毒な生活ぶりがいろいろ話された。上手ではないが、切々と相手の心に訴える話しぶりに、私も心を打たれた。

小野太三郎さんの話が終わると、同行の小学生が自分達の不運な身の上を歌にして歌った。余りの憐れさに女の先生達は廊下で泣いて居た。

うちへ帰った私は、両親に今日の話をした所、母は「私達がいる限り、お前をそんな境遇に落としわせぬ」と言っていたことを、70年後の今日もしっかり覚えている。

陽風だより第4号
(昭和55年12月25日発行)より一部抜粋

❖ 野村アサ子さん

「昭和44年ごろは、オムツは浴衣を切って使っていました。お風呂上がりは利用者さんに必ず天花粉（ベビーパウダー）を付けていました。ベッドから車いすへの移乗は看護婦さんに教えてもらい、おんぶ紐みたいなものを利用者の腰に巻いて腰を持ち上げるなど、工夫していました」

❖ 加藤澄子さん

「行事がある度に職員が歌ったり踊ったりし、一生懸命練習して団結

がありましたね。余興を見て喜んでいる利用者さんの姿は今でも忘れられないね。大切なことは利用者をよく知ることと、好きになることです。介護は愛情です」

諸先輩方の話を聞いていると、利用者も介護する側も負担を軽くするには学び続けなければいけないこと、そして利用者の思いを感じ、心と心を通わせ、寄り添いながら確実に、そして、笑顔を忘れないことが一番大切な介護技術であることが伝わる。時代を超えても変わらないこと、それは「愛」なのかもしれない。

もう一人の慈愛の人

今田與三松

——福祉に身を捧げた理髪師——

無料理髪を60年

陽風園の歴史を語る上で、理容師・今田與三松氏の存在は欠かせない。園祖・小野太三郎とともに創成期の陽風園を支え、約60年にわたり、陽風園利用者の理髪無料奉仕に身を捧げた。生涯を終えた際には園葬により送られており、陽風園の記録では、園葬が執り行われた唯一の人物である。



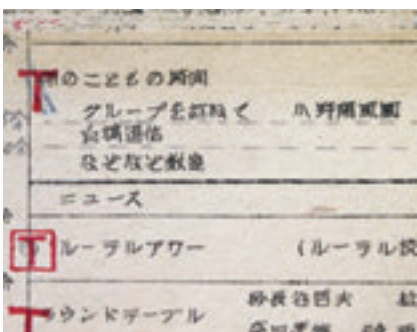
今田與三松氏

から市立金沢病院の患者に無料理髪を行い、第三善隣館の設立に尽力、司法保護施設の出所者を引き取って理髪を教え、大阪で独立開業させるなど、功績は枚挙にいとまがない。

ラジオ番組に出演

生前、今田氏はJOMR（現北陸放送）のラジオ番組「よい子のつどい」に出演し、当時の陽風園の様子を語っている。

放送は昭和27年5月27日。JOMRは同月10日に開局しており、放送開始直後の番組ということで力が入った企画であったことが推測される。収録は司会の滝沢友生氏と、陽風園の子ども会「共励会」の児童5人のもとを今田氏が訪れ、質問に答えるといった対談形式で進められた。



JOMRのラジオ番組編成表

児童からは「どんな人たちが（入所して）いましたか」「小野太三郎先生と仲良くしておられたの」

太三郎に直談判

今田氏と太三郎の出会い、明治27年（1894）、当時16歳だった今田氏が彦三にあつた小野救養所の太三郎を訪ね、理髪無料奉仕を申し出たことに始まる。

その際、太三郎から「皆が食べているこの飯が食えるか」と言われ、残飯を干したものを温め戻した食事を出された。今田氏がそれを食べると、太三郎は「そこまでやるならお願いする」と言ったという。

太三郎が今田氏の志を試したのであるが、晩年、今田氏は「これが臭くてはとても他人のために尽くせない」と（太三郎に）言われたことがあり、それから後は妙に何も気にならず食えるよ

と次々と質問が飛び、今田氏は「金沢の人は少なく、他の県の人が多かった」「一緒に銭湯に行き背中を洗ってあげたところ、洗い場で手をつけてありがとうとお礼を言われてびっくりした」など思い出話を披露した。

また、放送の中で今田氏は「（小野さんは）いつも古いシャツ一枚につきだらけの短いズボンのようなものをはいておられた」「決して他人に仕事を押し付けないで、一人静かに百人一首を歌いながら草むしりをしていた彦三時代の小野さんがどうしても忘れられない」と話し、飾り気のない普段の太三郎の姿を懐古している。

残念ながら音源は現存していないが台本は残っており、当時を知る貴重な資料である。

親子三代で貢献

晩年、体調を崩した今田氏は、昭和27年ごろから妻と二人で陽風園で生活をした。そこでも体調が許す限りは理髪を続けていたという。

昭和28年9月23日死去。園への多大な貢献に敬意を表して25日に園葬が執り行われ、大勢の参列者が故人の死を惜しんだ。式場には金沢市の井村重雄市長や陽風園の澤野外茂次園長、職

うになった」と回顧している。

太三郎に認められた今田氏は、同年11月から理髪無料奉仕を始めた。仕事の合間をぬって、毎月の公休日（当時は毎月17日）に当時住んでいた金石町（現金沢市金石）から小野救養所がある彦三まで、片道約8キロを通った。風雨積雪をものともせず、わらじを履いて歩いたという。小野慈善院と改名して常盤町・三口新町に移転した後も、公休日や余暇の時間を利用して通い続けた。

理髪師の育成にも尽力

社会奉仕の精神は、明治41年から石川県育成院、大正2年（1913）から金沢育児園での子どもへの理髪にも及んだ。髪を切るだけでなく、



育成院理髪部の活動

手先が器用な子どもは自宅に引き取って理髪の修行をさせた。この中から11人が独立して店を構えたという。その後昭和3年（1928）



今田氏を送った園葬の様子

員たちから送られた供花が所狭しと並べられた。今田氏亡き後、息子の与一氏が園での理髪奉仕活動を続けた。

そして、与一氏が亡くなった後も孫の三夫氏がその遺志を継ぎ、約20年間、園に通った。

今田氏が太三郎に直談判してから実に約80年。親子三代による理髪奉仕が続けられたのである。

表彰履歴

- | | |
|-----------------|--|
| 大正11年
(1922) | 小野慈善院収容者の理髪奉仕活動に対し、社会事業功労者として石川県知事より表彰 |
| 昭和4年
(1929) | 社会事業団体の後援に尽くした功績として石川県知事より表彰 |
| 昭和9年
(1934) | 小野慈善院長より創立以来40年間衛生施設に貢献することをもって感謝状を受ける |
| 昭和15年
(1940) | 社会事業功労者として厚生大臣より表彰 |
| 昭和27年
(1952) | 社会事業に尽くした功労により、藍綬褒章を授けられる |

陽風園 歴代理事長略伝

140年という歴史を誇る陽風園。その長き歴史を支えてきた11代にわたる理事長の活躍や活動を紹介する。

初代理事長
小野 太三郎

在職：1906～1912



おの・たさぶろう

幕末から明治期にかけて金沢市内で慈善活動を繰り広げた、日本の福祉の祖であり、陽風園の礎を築いた仁愛の人。

2代目理事長
渡瀬 政禮

在職：1912～1919



わたせ・まさのり

加賀藩士。改作奉行などを務める。明治維新の後、石川県議員などを経て、明治35年には金沢市長となる。

6代目理事長
井村 重雄

在職：1954～1972



いむら・しげお

あけぼの学園の開設や特別養護老人ホームの設置、財団法人小野陽風園を財団法人陽風園に改称するなど、現在の礎を築く。昭和22年から同30年まで金沢市長を務める。

7代目理事長
橋本 外喜男

在職：1972～1989

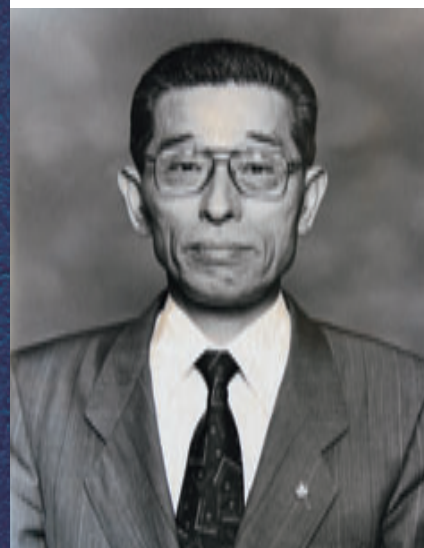


はしもと・ときお

向陽苑、万陽苑、三陽ホーム、若葉ホームの呼称を制定したほか、第二万陽苑を新設した。昭和49年に創立100周年の節目を迎え、同63年に園章を制定した。

8代目理事長
善 道

在職：1989～1991



ぜん・おさむ

石川県社会福祉事業団理事長を歴任。若葉ホームで心身障害者巡回療育相談等事業や精神薄弱者社会自立支援モデル事業などを開始。社会福祉事業功労者厚生大臣表彰を受けた。

4代目理事長
横井 伊佐美

在職：1936～1947



よこい・いさみ

弁護士で、金沢市議会議員を務めた。幼年部に農繁期季節託児所「三口新町託児所」を併設した。県知事の要請で、戦災疎開者への空室貸与にも尽力した。

5代目理事長
澤野 外茂次

在職：1947～1954



さわの・ともじ

昭和11年から同20年まで金沢市長を歴任。同23年の約830坪を焼失した火災以後、建物復旧計画の策定や自衛消防団の結成。財団法人小野慈善院を財団法人小野陽風園に改称。

9代目理事長
安田 隆明

在職：1991～2008



やすた・たかあき

信条「私たちの信条」を制定、第三万陽苑やあけぼの作業所、みずき保育園の開設など数々の新規事業を展開した。参議院議員、石川県中小企業団体中央会会長などを歴任。

10代目理事長
奥 清

在職：2008～2011



おく・きよし

在宅事業推進局の設置、第二・第三万陽苑の居宅介護支援事業を陽風園生活支援センターに集約するなど組織再編を行い、在宅部門の強化に尽力した。元金沢市助役。

11代目理事長
古田 秀一

在職：2011～



ふるた・しゅういち

金沢市公営企業管理者、金沢市福祉保健局長を歴任。在宅事業推進局を陽風園地域福祉プラザと改称し、地域福祉総合相談事業を開始。陽風園整備計画を推進した。

3代目理事長
飯尾 次郎三郎

在職：1919～1936



いいお・じろうさぶろう

大正8年から同11年まで金沢市長を務める。倉庫製練の常務、明治印刷を代表して商業会議所の議員にも。

陽風園 140年のあゆみ

陽風園のあゆみ

●小野太三郎 飢えに苦しむ人々を自宅に救養したり、蓄財を分け与える

●小野太三郎 島崎センと結婚

小野 太三郎

寛文9年
(1669年)

元治元年
(1864年)

慶応元年
(1865年)

慶応3年
(1867年)

明治2年
(1869年)

明治4年
(1871年)

明治5年
(1872年)

明治6年
(1873年)

明治7年
(1874年)

明治8年
(1875年)

明治12年
(1879年)

時代の動き

●凶作で領内各地から大量の窮民が金沢に流入、5代藩主前田綱紀は「非人小屋」(笠舞)を建てて収容し、衣食を与えた

●加賀藩14代藩主前田慶寧、卯辰山に貧民院(移転時「養育所」、お救い小屋(移転時「撫育所」、座頭座を移す

●版籍奉還で加賀藩は金沢藩となり、14代藩主前田慶寧は金沢藩知事に任命される

●7月14日 廃藩置県で、金沢藩域は金沢県(第1次)となった

撫育所、座頭座を閉鎖。多くの収容者が路頭に迷うことになる

●2月2日 金沢県庁を石川郡美川町(現・白山市美川南町)に移し、この郡名より石川県と改称した
「養育院」ロシア皇太子が訪日するにあたり、明治政府は巷の生活困窮者などを本郷の元加賀藩邸跡(現東大構内)の空き長屋に収容したことが始まり

●「徴兵令」施行(1月10日)
「地租改正法と地租改正条例」(7月28日太政官布告第272号)制定 日本にはじめて土地に対する私的所有権が確立した
県庁を金沢に移転する

●「恤救規則」(明治7年12月8日太政官達第162号)制定 親族扶養や近隣の救済が困難な者を対象に、状況に応じて一定程度の米代を現金給付するもので、情民観を基礎に、家族や村落共同体による救済を重視する。救済の対象を廃疾、重病、老衰、疾病のため生業困難な極貧の独身者、貧窮な児童などに限定した

●「海軍退隠令」制定

●小野太三郎 金沢市彦三一番丁其の他に家屋6棟を購入生活困窮者200余名を収容

●金沢警察署巡查古川常幹 小野太三郎の窮民救済調書を金沢警察署長 警部川上親晴に上申

●2月20日 小野太三郎 救育事業の功績により藍綬褒章を受賞

●小野セン 石川県知事岩村高俊及び東本願寺法主大谷光勝より受賞(中堀川町組合惣代飯田寛次郎、医師浅地某の上申)

●9月 「貧天地主小野太三郎氏」北國新聞連載記事

●6月1日 横山源之助 下層社会研究の一環として、小野太三郎を訪問する

●11月26日 小野セン 逝去

●小野太三郎 小坂(松岡)シゲと結婚

●「石川県救育所取締規則令」(1月27日)制定
『小野救養所』は衛生上、風紀上、管理上に抵触するところがあつた

7月31日 金沢市市参事会において「教育費補助金」「建造物移転料金」を小野休養所に交付することを決定する。同時に、小野慈善院を精神病者監護法第6条該当者の委託収容先と定める

小野 太三郎

明治17年
(1884年)

明治18年
(1885年)

明治19年
(1886年)

明治20年
(1887年)

明治21年
(1888年)

明治24年
(1891年)

明治28年
(1895年)

明治30年
(1897年)

明治31年
(1898年)

明治32年
(1899年)

明治33年
(1900年)

明治36年
(1903年)

明治37年
(1904年)

明治38年
(1905年)

明治

●「官吏恩給令」 制定

●「東京キリスト教婦人矯風会」矢嶋楫子、日本で最も古い婦人団体。公娼制度(娼婦)の廃止運動(廃娼運動)、婦人参政権獲得運動を活動分野とした

●「孤児教育会(後の岡山孤児院)」石井十次(キリスト教徒)、巡礼途中で夫に先立たれた母親から一人の男児を引き取る。これをきっかけに岡山市の三友寺で創設

●10月28日 濃尾地震

「岡山博愛会」アメリカンボールド宣教師アリス・ペティー・アダムスが花畑地区の子供たちとクリスマス会を持ち、日本学校を開始する。日本最初のセツルメント

「聖三一孤女学院」石井亮一、濃尾地震で親を失った孤女のための保護施設を開設

●「聖ヒルタ養老院」英国聖公会婦人伝道師エリザベス・ソーントンにより東京港区の民家にて開設

●「聖三一孤女学院」知的障害児のための施設となり、「滝乃川学園」と改称
「キングスレー館」設立、片山潜により東京神田三崎町に設立されたセツルメント

●4月1日 官設鉄道北陸線の小松駅・金沢駅間延伸により開業(一般駅…終着駅、所在地 木ノ新保)

●「巣鴨家庭学校」留岡幸助、巣鴨に土地を購入し、家庭学校を設立
横山源之助、『日本之下層社会』、『内地雑居後之日本』を相次いで刊行

●「精神病者監護法」(法律第38号)制定
日本初の精神病者に対する法律、監護義務者による私宅監置を認めた

「二葉幼稚園」華族女学校付属幼稚園に勤務していた野口幽香と森島美根によって設立。貧児にも華族幼稚園と同じ様に保育したいと願い、麹町の借家で6人の子どもたちを集めて開園

●2月8日 日露戦争

●10月14日 日露戦争終結

8月1日 金沢市常盤町に新院舎竣工 敷地3,100坪
建物面積500坪 本日ここに移転す『小野慈善院』と呼称

●2月 電灯を架設

6月30日 作業場、排水溝新設工事竣工

7月4日 石川県知事 精神病舎設置の認可

10月29日 財団法人の認可を受ける 『財団法人小野慈善院』

10月29日 理事長兼初代院長 小野太三郎

●5月15日 石川県知事より庶務規定設定の件認可

7月8日 石川県知事 収容定員250名に変更認可

●3月30日 内務省より事務資金として金4000円下賜

9月25日 皇太子殿下御使いとして侍従内田三吉氏を本院に御差遣

●6月14日 本院事業資金として前田利為氏は金一万円寄附

●4月5日 院長小野太三郎 逝去 73歳(満72歳)

4月6日 理事長兼第2代院長 渡瀬政禮(金沢市長)

10月8日 金沢市指令衛第280号をもって本院死亡者の
火葬料免除の件認可

●3月28日 院所有の山地を開いて敷地409坪建物面積

116坪の幼年部院舎の新築工事竣工 収容定員30名

5月20日 北国慈恵院解散 院児13名を幼年部に収容

2代目理事長 渡瀬 政禮

小野 太三郎

初代理事長 小野 太三郎

明治39年
(1906年)

明治40年
(1907年)

明治41年
(1908年)

明治42年
(1909年)

明治43年
(1910年)

明治45年
(1912年)

大正2年
(1913年)

大正3年
(1914年)

大正5年
(1916年)

大正6年
(1917年)

大正7年
(1918年)

大正8年
(1919年)

大正9年
(1920年)

大正10年
(1921年)

大正11年
(1922年)

明治

大正

●「中央慈善協会(後に全国社会福祉協議会へと発展)」設立

●8月23日 第1次世界大戦(日本参戦)

「北海道家庭学校」留岡幸助、北海道上湧別村字社名淵に国有地の払い下げを受けて、家庭学校の分校と農場を開設

●「済世顧問制度」開始。地域の貧民の相談にのる防貧制度。岡山県知事笠井信一がドイツのエルバーフェルト市の救貧委員制度を参考に作ったもの。後の民生委員制度の源流

●「大阪府方面委員制度」開始。大阪府知事林市蔵、管内をいくつかの方面(地域)に分け、それぞれの方面に委員を置き、生活状況の調査と救済などの実務にあたった

●6月28日 第1次世界大戦終結

●第1回国勢調査 高齢化率5・3% 年少人口率36・5%
「愛隣社老人ホーム」島根県松江市に日本で最初に老人ホームの名称を使用した施設

●「大阪市民館」公立セツルメント開設
「中央慈善協会」を「社会事業協会」に改称
長崎県社会事業協会の共同募金(日本で最初)

●「健康保険法」制定(1927年施行)

●6月6日 有栖川宮家より御下賜金下附
9月12日 理事長兼第2代院長 渡瀬政禮 辞任
9月12日 評議員飯尾次郎三郎理事に選ばれ3代院長に就任
(金沢市長)
12月1日 東久爾宮家より御下賜金下附

●9月29日 無縁塔を建設

●9月30日 洗濯場等増築工事竣工

3代目理事長 飯尾 次郎三郎

●11月4日 摂政宮殿下御使い土屋侍従を本院に御差遣

●3月31日 私立臥龍尋常小学校を廃止 就学児童は市内小学校に通学する

●6月22日 救護法の実施に伴い救護施設の認可を受ける

●3月25日 院舎の狹隘と設備改善のため院舎の移転拡張の認可
4月7日 石川郡崎浦村三口新（現在地）に敷地6,547坪を購入
7月24日 院舎新築工事に着工
12月26日 新院舎竣工 建坪1,606坪

●3月24日 新院舎に移転す 現在地に移転
5月20日 本院移転改築落成式挙行

●1月28日 理事長兼第3代院長 飯尾次郎三郎 逝去
2月27日 理事長兼第4代院長 横井伊佐美（弁護士）
4月20日 幼年部に農繁期季節託児所を併置す 春秋2回
各50日間 三口新町託児所と称す 託児数35名
9月15日 常盤町旧院より無縁塔を新院に移転
12月31日 納骨堂、鶏舎、温室の新築工事竣工

●6月7日 幼年部の三寮舎を六家族舎に改造 収容児も六家族に分け、一家族舎に保母1名を配置す

3代目理事長 飯尾 次郎三郎

4代目理事長 横井 伊佐美

大正12年
（1923年）

大正13年
（1924年）

大正14年
（1925年）

大正15年
（1926年）

昭和2年
（1927年）

昭和4年
（1929年）

昭和5年
（1930年）

昭和6年
（1931年）

昭和7年
（1932年）

昭和8年
（1933年）

昭和9年
（1934年）

昭和11年
（1936年）

昭和12年
（1937年）

昭和13年
（1938年）

昭和14年
（1939年）

昭和15年
（1940年）

大正

昭和

●「恩給法」制定（海軍・陸軍・官吏の恩給令を統合）
9月1日 関東大震災

●「社会事業協会」を「財団法人中央社会事業協会」に組織変更

●高齢化率5・1％ 年少人口率36・7％

●「健康保険法」施行（工場、鉱山、交通業の事業所で働く従業員本人のみ）
「公益質屋法」（昭和2年3月31日）制定

●「救護法」公布
大恐慌（アメリカから発生）

●高齢化率4・8％ 年少人口率36・6％
昭和恐慌

●昭和恐慌
「全国方面委員連盟」結成

●「救護法」施行 救護機関、救護施設、救護費、救護の種類を明記。居宅においての救護を原則とし、これが不適当な場合に救護施設に収容する。執行機関は市町村長。対象者は、65歳以上の老衰者、13歳以下の幼者、妊産婦、障害等で労働できない者に制限

「光明学園」高木憲次、日本最初の肢体不自由児施設

●「児童虐待防止法」制定
「少年救護法」制定 不況、貧困、私物我子観で多くの子供が犠牲となっていた

●「方面委員令」制定（全国統一的制度、民生委員制度の原型）

●7月7日 日中戦争

●「社会事業法」制定
「国民健康保健法」制定（農林業従事者、商工業自営業者を対象）

●「船員保険法」制定（船員対象）
「職員健康保健法」制定（販売、金融の事業所で働く従業員を対象）
9月1日 第2次世界大戦

●高齢化率4・7％

- 4月10日 隣接田地421坪を購入 経費1,263円
- 10月10日 石川県知事より向う1ヶ年、戦災疎開者に対し空室貸与の件認可
- 4月10日 愛知県集団疎開者「避難民」65名を受け入れ
10月11日 愛知県の集団疎開者全員引き揚げる
- 3月12日 恩賜財団戦災援護会石川県支部長と建物10棟延坪433坪を向う3ヶ年間、戦災者及び外地引揚者に対し貸借契約成立
7月23日 石川軍政部より通訳官来院 経営状況の調査及び院内外の施設・設備を視察
- 5月27日 ララ物資第1回目を受領（以下この種記事省略）
7月10日 石川県知事より生活保護法による収容保護施設の認可
7月23日 理事長兼第四代院長 横井伊佐美 逝去
10月5日 金沢市長澤野外茂次理事長に選ばれ、第5代院長に就任
10月29日 天皇陛下北陸巡行の際本院に行幸 午後4時35分御着 午後4時45分御退出
- 1月1日 児童福祉法により、幼年部は養護施設に認められる（定員110人）
1月30日 養老部老人ホーム2棟
2月7日 第1回共同募金配分金受領 金32万円（以下この種記事省略）
4月8日 厚生大臣竹田儀一氏来院視察
4月13日 一精神者の失火により男子寮、女子寮、浴場、被服庫、炊事場、夫婦寮等10棟約830坪を焼失
5月12日 火災による焼失建物復旧計画案成る
6月15日 自衛消防団を組織 結団式挙行
6月18日 東本願寺法主大谷光暢師来院
9月10日 厚生大臣竹田儀一氏来院 本院復興状況を視察
9月14日 焼失建物復興工事竣工 収容寮4棟、炊事場、浴場、理髪室各1棟他附属建物 総面積770・75坪
9月29日 高松宮殿下御成り 施設の状況を御視察
12月21日 火災復旧工事竣工式挙行 厚生大臣代理、石川県知事、金沢市長他150名参列
12月28日 石川県指令収厚第846号をもって『財団法人小野慈善院』を『**財団法人小野陽風園**』と改称
- 4月8日 石川県指令収衛第411号をもって診療所の設置経営の認可を受ける
5月9日 運動場300坪整備工場竣工
- 7月20日 物品倉庫1棟竣工 15坪
9月15日 金沢市金石町河合辰五郎氏寄贈による礼法室新築工事竣工20坪5
9月25日 収容寮2棟新築工事竣工 204・75坪
- 8月8日 収容寮、静養室各1棟新築工事竣工 178・25坪
9月15日 第1回『としよりの日』 昼食は特別献立、午後講堂に於いて芸人による演芸会

4代目理事長 横井 伊佐美

澤野 外茂次

5代目理事長

昭和16年
(1941年)

昭和17年
(1942年)

昭和19年
(1944年)

昭和20年
(1945年)

昭和21年
(1946年)

昭和22年
(1947年)

昭和23年
(1948年)

昭和24年
(1949年)

昭和25年
(1950年)

昭和26年
(1951年)

昭和

時代の動き

- 「労働者年金保険法」制定 現在の厚生年金保険法の前身。戦時下にあつて、非事務系の労働者のみを対象とし報酬比例部分のみを給付することとした
12月8日 太平洋戦争
- 「厚生年金保険法」に改称（「労働者年金保険法」を改称。事務系男性や女性にも適用範囲を拡大）
- 9月2日 第2次世界大戦終結
「生活困窮者生活援護事業」、「生活困窮者緊急生活援護要綱」閣議決定（戦災者、引揚者、復員兵、失業者を対象とし、宿泊・給食・医療・衣料等の現物支給）
「恩賜財団戦災援護会（後の恩賜財団同胞援護会）」発足
- 「日本国憲法」公布
「民生委員令」公布 方面委員は民生委員と改称
「近江学園」滋賀県大津市の知的障害児、孤児収容施設。糸賀一雄・池田太郎・田村一二により創立
- 「児童福祉法」、「教育基本法」、「労働基準法」、「労働者災害補償保険法」、「失業保険法」制定
国民たすけあい共同募金 実施
「中央社会事業協会」、「全日本私設社会事業連盟」と合併、「日本社会事業協会」と改称
ベビーブーム
- 「民生委員法」制定
ベビーブーム
- 「身体障害者福祉法」制定
ベビーブーム
- 「生活保護法」制定
「精神衛生法」制定
高齢化率4・9%
- 「社会福祉事業法」制定
「児童憲章」制定
「公営住宅法」制定
「日本社会事業協会」、「全日本民生委員連盟」および「恩賜財団同胞援護会」が合併、「財団法人中央社会福祉協議会」を設立

- 2月16日 本園篤志理髪師今田與三松氏 社会事業功労者として藍綬褒章を受賞

●3月29日 石川県指令収児第238号をもって保育所設置経営の認可を受ける

●4月1日 保育所を開設 定員50名

●5月9日 厚生省指令石社第13号をもって財団法人組織を社会福祉法人組織に変更の件認可 『社会福祉法人小野陽風園』

●7月10日 農地法実施により土地478・84坪を売却

●8月1日 高松宮妃殿下御成り 施設収容者を御慰問される

●9月23日 本園篤志理髪師今田與三松氏死去

●9月25日 故今田與三松氏の園葬執行

●4月10日 本園創立80周年記念式典を挙行

●4月19日 理事長兼第5代院長 澤野外茂次 逝去

●4月28日 石川県指令収福第578号をもって理事浦上太吉郎は園長代理に認可

●5月15日 金沢市長井村重雄 第6代園長に就任

●6月15日 上田茂 常務理事に選ばれ本日登園

●11月1日 石川県指令収福第1407号をもって生活保護法にもとづく救護施設設置経営の認可を受け、本日開設

●8月23日 厚生省石社第281号により、保育所及び救護施設設置経営に関する定款変更の件認可（以下この種記事省略）

●12月30日 収容寮1棟44・725坪 作業場1棟15・75坪竣工

●3月16日 石川県指令収福第530号をもって児童福祉法

●1月10日 浴場、洗濯場、乾燥場の新築工事48・95坪、及び旧浴場、作業場等110・75坪の収容寮への改修工事竣工

●5月1日 セメント瓦製造工場事業開始

●5月20日 薄井久氏寄附による収容寮1棟新築工事竣工 50坪

●7月13日 納骨堂新築工事竣工 除幕式挙行

●12月17日 小野陽風園診療所を廃止する

●12月10日 建物整備10ヶ年計画を立案

●9月21日 池田隼人総理大臣、中山マサ厚生大臣来園視察

●4月1日 石川県指令第110号をもって若竹学園の定員を80名に変更

●7月1日 建物整備計画にもとづく第1年度工事竣工 115坪

5代目理事長 澤野 外茂次

6代目理事長 井村 重雄

昭和27年
(1952年)

昭和28年
(1953年)

昭和29年
(1954年)

昭和30年
(1955年)

昭和31年
(1956年)

昭和32年
(1957年)

昭和33年
(1958年)

昭和34年
(1959年)

昭和35年
(1960年)

昭和36年
(1961年)

昭和

- 「日本赤十字社法」制定

「財団法人中央社会福祉協議会」が「社会福祉法人全国社会福祉協議会連合会」に改称

●「日雇い労働者健康保険法」制定

「私立学校職員共済組合法」制定

●「厚生年金保険法」改正(旧法を抜本改正し現在の法律になる)

●「生活更生資金貸付制度」開始

高齢化率53%

「社会福祉法人全国社会福祉協議会連合会」が「社会福祉法人全国社会福祉協議会」に改称

●「売春防止法」制定

長野県「家庭養護婦派遣事業」開始(ホームヘルパーの発祥)

●新「国民健康保険法」制定

大阪市「臨時家政婦派遣事業」(翌年に「家庭奉仕員派遣制度」に改称)始める

●「国民年金法」制定

「最低賃金法」制定

●「精神薄弱者福祉法」制定

「身体障害者雇用促進法」制定

高齢化率5・7%

池田内閣「所得倍増論」

●「児童扶養手当法」制定

「世帯更正資金貸付制度」開始

「災害対策基本法」制定

「国民皆保険・国民皆年金体制」発足

東京都「家庭奉仕員制度」東京都社会福祉協議会に委託して開始

- 3月31日 児童福祉法による養護施設若竹学園を廃止
- 12月20日 建物整備計画にもとづく第2年度工事竣工 250坪
- 12月26日 建物整備計画にもとづく第3年度工事竣工 124坪
- 8月1日 老人福祉法の施行により、従来の生活保護法による養老施設は、老人福祉法による施設に切り替えられ、老人ホームと呼称する
- 10月10日 小林厚生大臣来園視察
- 12月20日 建物整備計画にもとづく第4年度工事竣工 394坪
- 4月1日 厚生省収第176号をもって精神薄弱者援護法にもとづく精神薄弱者援護施設を開設 若葉ホームと呼称 定員92名
- 5月30日 石川県指令民第1216号をもって救護施設の定員を192名を100名に変更
- 12月20日 建物整備計画にもとづく第5年度工事竣工 444坪
- 1月1日 厚生省収社第748号をもって特別養護老人ホームを設置 事業開始定員100名
- 1月1日 養護老人ホームの定員298名を特別養護老人ホーム移換のため230名に変更
- 6月28日 園祖小野太三郎墓碑を市内小立野宝円寺より本園納骨堂地域に移転
- 10月20日 郵便葉書配分金によりあけぼの学園の新寮舎竣工 235坪30
- 11月1日 石川県指令第788号をもって精神薄弱児施設あけぼの学園の定員50名を70名に変更
- 3月10日 建物整備計画にもとづく第6年度工事竣工 471坪
- 6月1日 石川県民収第1170号をもって養護老人ホームの定員230名を270名に変更
- 1月30日 建物整備計画にもとづく第7年度工事竣工 691坪
- 7月14日 京都東本願寺より寄贈された九字十字名号の遷仏式を勤修
- 10月4日 衆議院厚生委員畑野氏他4名来園視察
- 3月31日 建物整備計画にもとづく第8年度工事竣工 571坪
- 4月1日 上田茂 常務理事を辞任
- 4月1日 橋本外喜雄 常務理事に就任
- 5月1日 特別養護老人ホームの定員100名を120名に変更
- 6月7日 職員及び在園者の作業による管理棟前造園事業完成
- 6月8日 社会福祉法人小野陽風園の『概要』を発行
- 6月9日 園祖小野太三郎翁顕彰碑の除幕式を挙行
- 6月9日 建物整備8ヵ年計画事業完成落成式を挙行 以降この日を園祭とする
- 6月9日 井村重雄理事長10年以上の永年勤続職員27名を表彰
- 1月21日 葬祭場及び小集会場の増改築工事竣工 37・21坪
- 4月1日 『社会福祉法人小野陽風園』を『**社会福祉法人陽風園**』に変更
- 3月31日 精神薄弱児施設あけぼの学園を廃止する
- 7月1日 特別養護老人ホームの定員120名を205名に変更
- 納骨堂新築
- 4月23日 診療所19床1部変更の件認可
- 3月22日 第6代理事長 井村重雄 逝去
- 4月1日 橋本外喜雄 第7代理事長に就任
- 10月4日 塩見厚生大臣視察

6代目理事長 井村 重雄

7代目理事長 橋本 外喜男

昭和37年（1962年）
昭和38年（1963年）
昭和39年（1964年）
昭和40年（1965年）
昭和41年（1966年）
昭和42年（1967年）
昭和43年（1968年）
昭和44年（1969年）
昭和45年（1970年）
昭和46年（1971年）
昭和47年（1972年）

昭和

時代の動き

- 国「家庭奉仕員制度設置要綱」を定め国庫補助対象の福祉事業とする
- 「老人福祉法」制定
- 「老人福祉法」で「老人家庭奉仕員」を制度化
- 「特別児童扶養手当法」制定
- 「母子福祉法」制定
- 「母子保健法」制定
- 「厚生年金基金法」制定
- 高齢化率6・3％
- 高度経済成長
- 社会福祉協議会に「福祉活動専門員」を配置
- 心身障害者の公営住宅への優先入居制度開始
- 東京都、老人医療費無料化実施
- 「心身障害者対策基本法」制定
- 高齢化率7・1％（高齢化社会）
- 「社会福祉法人全国社会福祉協議会」が「社会福祉法人社会事業会館」を合併
- 「児童手当法」制定
- 「社会福祉施設緊急整備5ヵ年計画」（厚生省の施設整備計画）
- 「老人福祉法」改正（老人医療費支給制度により老人医療無料化）

陽風園のあゆみ

時代の動き

● 4月1日 精神薄弱者援護施設の定員92名を120名に変更 6月1日 特別養護老人ホームの定員205名を250名に変更 6月1日 精神薄弱者援護施設の定員120名を170名に変更 12月1日 在宅老人機能回復訓練開始する（特別養護老人ホーム） ● 4月1日 特別養護老人ホームの定員250名を300名に変更 4月1日 養護老人ホーム270名を240名に変更 9月25日 常陸宮殿下御夫妻御視察 11月15日 社会福祉法人陽風園創立100周年記念式典挙行 ● 4月1日 特別養護老人ホームの定員300名を330名に変更 4月1日 特別養護老人ホームの定員330名を364名に変更 ● 4月1日 精神薄弱者援護施設の定員170名を190名に変更 10月1日 園内日より発刊 万陽苑に御下賜金が下賜される ● 2月1日 特別養護老人ホームの定員364名を370名に変更 ● 4月14日 施設の個有名称を定める（養護老人ホーム向陽苑、特別養護老人ホーム万陽苑、救護施設三陽ホーム、精神薄弱者援護施設若葉ホーム） ● 3月30日 大桑町にて特別養護老人ホーム建設用地を取得 22,645㎡ 4月1日 万陽苑在宅入浴サービス開始する ● 7月1日 第二万陽苑を大桑町にて開設 定員150名 7月1日 特別養護老人ホーム万陽苑の定員370名を320名に変更 ● 10月1日 園章の制定 向陽苑に御下賜金が下賜される ● 4月30日 第7代理事長 橋本外喜雄 辞任 7月11日 善 道 8代理事長 就任 ● 11月9日 社会福祉事業功労者厚生大臣表彰（精神薄弱者福祉功労団体） ● 4月1日 若葉ホームで心身障害者巡回療育相談等事業、精神薄弱者社会自立モデル事業を開始 6月24日 陽風園整備基本計画策定し、理事会の承認を得る 6月30日 第8代理事長 善 道 辞任 7月1日 安田隆明 第9代理事長 就任 8月22日 陽風園整備計画検討委員会を設置 行政（県・市）、関係機関（県社協、老施協、福祉公社）、園の三者による 10月25日 三小牛町にて特別養護老人ホーム建設用地を取得 9,900㎡	9代目理事長 安田 隆明	8代目理事長 善 道	7代目理事長 橋本 外喜男												
昭和48年 （1973年）	昭和49年 （1974年）	昭和50年 （1975年）	昭和51年 （1976年）	昭和53年 （1978年）	昭和54年 （1979年）	昭和55年 （1980年）	昭和56年 （1981年）	昭和57年 （1982年）	昭和59年 （1984年）	昭和60年 （1985年）	昭和62年 （1987年）	昭和63年 （1988年）	平成元年 （1989年）	平成2年 （1990年）	平成3年 （1991年）
昭和										平成					
● 高齡化率7・9％ ● 高齡者のショートステイ事業を制度化 ● 高齡者のデイサービス事業を制度化 ● 高齡化率9・1％ ● 「母子及び寡婦福祉法」名称変更 国際障害者年（完全参加と平等） ● 「老人保健法」制定（老人医療費の一部負担制度導入） ● 高齡化率10・3％ ● 「社会福祉士及び介護福祉士法」制定 「義肢装具士法」制定 「障害者雇用促進法」（身体障害者雇用促進法）改正 ● 消費税導入 高齡化社会に備えて厚生省が「高齡者保健福祉推進10ヵ年戦略」（通称ゴールドプラン）を制定 ● 福祉関連8法改正 「生活福祉資金貸付制度」（世帯更正資金貸付制度）名称変更 国が「高齡者福祉整備10ヵ年計画」を打ち出す。ここにホームヘルパーという名称が登場する 高齡化率12・0％ ● 厚生省、地域社会づくりとして「ふれあいのまちづくり事業」を開始															

11月1日 老人短期入所促進事業を開始 万陽苑、第二万陽苑にて
11月1日 「陽風園だより」第1号発刊
12月20日 三小牛町にて特別養護老人ホーム建設用地を取得
4,519㎡

● 1月1日 介護ヘルパー設置促進事業を開始 万陽苑、第二万陽苑にて
5月19日 第三万陽苑起工式
7月1日 金沢市が「ふれあいのまちづくり事業」の指定を受け、金沢市社会福祉協議会と協力しボランティア・福祉・介護等講座の一部を担当

● 4月1日 金沢市福祉サービス公社の在宅介護支援センター開設に伴い、万陽苑が日曜・休日・夜間等の相談業務を担当
5月5日 「私たちの信条」制定
6月24日 精神薄弱者更生施設若葉ホームに名称変更
6月30日 石川県指令長第720号により特別養護老人ホーム第三万陽苑の設置認可
6月30日 石川県指令長第721号により万陽苑の事業変更の認可
6月30日 別所町にて精神薄弱者更生施設移転用地を取得
43,606㎡
7月1日 特別養護老人ホーム第三万陽苑を三小牛町に開設
定員150名、シヨートステイ20名
7月1日 特別養護老人ホーム万陽苑の定員320名を190名に変更
8月1日 第三万陽苑デイサービスセンター(B型)開設

● 3月1日 ハビリポート若葉建設策定委員会が設置される
4月1日 精神薄弱者地域生活援助事業(グループホーム)スタートもみじ開設

● 4月1日 金沢市福祉サービス公社の委託による、夜間の「在宅老人緊急通報受信事業」を担当
7月7日 戦後五十年記念事業、タイムカプセル埋設式
10月9日 障福第1128号によりハビリポート若葉の施設基準適合の承認
11月1日 精神薄弱者更生施設ハビリポート若葉を別所町に移転開所 定員210名、短期入所4名

● 4月1日 あけぼの作業所開設
4月1日 万陽苑デイサービスセンター開設
4月1日 陽風園お年寄り介護相談センター開設
4月1日 精神薄弱者地域生活援助事業(グループホーム)スタートあおば開設
6月21日 辻トシ子女史胸像の除幕式を挙行
9月18日 天皇皇后両陛下石川県行幸啓(第16回全国豊かな海づくり大会)の際、ハビリポート若葉を御視察

● 4月1日 万陽苑デイサービスセンターで業務時間の延長(ロングデイサービス)、土・日・祝祭日の業務(ホリデイサービス)を開始
4月8日 金沢三口新町簡易郵便局を開設
9月4日 たばこ小売業許可(特定小売販売業)

● 3月31日 向陽苑、万陽苑にて老朽化した一部建物の大規模改修工事を施行
4月1日 あけぼの作業所定員を変更(37名)
9月17日 三口新町1丁目503番地 土地214㎡建物延403㎡を取得

9代目理事長 安田 隆明

平成4年
(1992年)

平成5年
(1993年)

平成6年
(1994年)

平成7年
(1995年)

平成8年
(1996年)

平成9年
(1997年)

平成10年
(1998年)

平成

● 「福祉用具の研究開発および普及促進に関する法律」制定

● 「地域保健法」制定
厚生省「高齢者保健福祉5ヵ年計画」(新ゴールドプラン)を策定

● 「高齢社会対策基本法」制定
「精神保健福祉法」改称
1月17日 阪神・淡路大震災
高齢化率14・5%(高齢社会)

● 「介護保険法」制定
「精神保健福祉士法」制定
「言語聴覚士法」制定
「障害者雇用促進法」改正(知的障害者雇用の義務化)

● 「精神薄弱の用語の整理の為の関係法律の一部を改正する法律」制定

- 10月8日 三陽ホーム大規模修繕等及び拡張事業
- 10月10日 創立125周年事業
- 3月1日 金沢お年寄り介護相談センター第三万陽苑の開設
- 3月1日 陽風園お年寄り介護相談センターの名称を金沢お年寄り介護相談センター陽風園に変更
- 6月3日 崎浦地区町会連合会と災害時相互応援協定を締結
- 9月27日 指定居宅介護支援事業者として、「陽風園生活支援センター」「第二万陽苑生活支援センター」「第三万陽苑生活支援センター」を開設
- 10月1日 知的障害者地域生活援助事業（グループホーム）さくら開設
- 1月1日 万陽苑開設35周年を記念して、記念特別献立、記念講演、記念誌の発行
- 2月10日 万陽苑ちぐさ寮の一部個室化工事を施行
- 3月24日 第二万陽苑の一部個室化、食堂及び機能回復訓練室の拡張、シヨートステイ専用個室10室等増改築工事を施行
- 4月1日 介護保険制度下での各施設サービスを開始
- 5月1日 陽風園金沢南生活支援センターを開設
- 4月1日 万陽苑訪問介護センターにて身体障害者居宅介護等事業を開始
- 4月1日 あけぼの作業所の定員変更（40人）
- 6月30日 創立130周年事業
- 8月23日 木越町にて通所介護事業用地を取得 1,613㎡
- 1月31日 万陽苑訪問介護センターにおける身体障害者居宅介護等事業を廃止
- 3月31日 金沢市指令収こ福第1035号によりみずき保育園の設置認可
- 4月1日 みずき保育園、金沢市みずき4丁目1番地にて開園
- 4月1日 金沢市指令収長寿第35号により木越デイサービスセンター設置届受理により「陽風園木越デイサービスセンター（単独型）・陽風園木越生活支援センター」金沢市木越町チ60番地1にて事業開始
- 3月31日 万陽苑訪問入浴サービス事業を廃止
- 3月31日 金沢市の制度変更により金沢お年寄り介護相談センター陽風園及び金沢お年寄り介護相談センター第三万陽苑を廃止
- 4月1日 地域包括支援センター お年寄り地域福祉支援センターみつくちしんまち及びお年寄り地域福祉支援センター第三万陽苑窓口を開設
- 10月1日 向陽苑にて外部サービス利用型特定施設入居者生活介護事業を開始
- 10月1日 向陽苑訪問介護センターを開設
- 10月1日 ハビリポート若葉共同生活援助サービス開始（グループホーム3事業を1本化）
- 4月1日 万陽苑短期入所サービス定数変更（9人）
- 1月28日 第9代理事長 安田隆明 辞任
- 1月29日 奥 清 第10代理事長 就任
- 3月31日 陽風園金沢南生活支援センター閉所
- 4月1日 陽風園木越デイサービスセンター定員変更（20人）
- 4月1日 在宅部門を強化するため在宅事業推進局を設置

9代目理事長 安田 隆明

10代目理事長 奥 清

平成

- 平成11年（1999年）
- 平成12年（2000年）
- 平成13年（2001年）
- 平成14年（2002年）
- 平成15年（2003年）
- 平成16年（2004年）
- 平成17年（2005年）
- 平成18年（2006年）
- 平成19年（2007年）
- 平成20年（2008年）
- 平成22年（2010年）
- 「社会福祉法」〔社会福祉事業法〕改正
- 「介護保険法」施行
- 成年後見制度施行
- 「児童虐待の防止等に関する法律」制定
- 高齢化率17・3%
- 高齢化率17・7%
- 「身体障害者補助犬法」制定
- 支援費制度申請受付開始
- 支援費制度開始
- 「発達障害者支援法」制定
- 「障害者自立支援法」制定
- 高齢化率20・1%
- 高齢化率21・5%（超高齢社会）
- 高齢化率23・0%
- 少子化対策実施計画「重点的に推進すべき少子化対策の具体的実施計画について」（新エンゼルプラン）を策定
- 厚生省「高齢者保健福祉5ヵ年計画」（ゴールドプラン21）を策定
- 地域福祉権利擁護事業開始

4月1日	陽風園生活支援センター所在地を陽風園敷地内に変更（3番25号から8番1号）
4月1日	第二万陽苑生活支援センター及び第三万陽苑生活支援センターの居宅介護支援事業を廃止し、陽風園生活支援センターに機能を集約
4月1日	陽風園整備計画策定 第1期H22年度～H25年度第2期H26年度～H28年度
9月17日	向陽苑分割のため桂町にて土地取得 3,563㎡
●3月31日	第10代理事長 奥 清 辞任
4月1日	古田秀一 第11代理事長 就任
4月1日	陽風園診療所を無床化する
6月30日	金沢市涌波3丁目163番の土地取得（276・98㎡）
10月1日	障害者自立支援法に基づき、新体系へ移行し就労継続支援B型あけぼの作業所とする。定員変更なし
10月31日	ハビリポート若葉増築38・08㎡
12月1日	障害者自立支援法に基づき、新体系へ移行しハビリポート若葉を同一敷地で2分割する。（障害者支援施設ハビリポート若葉 定員164人 短期4人、障害者支援施設ハビリポート若竹 定員36人 短期空床型）
●4月1日	養護老人ホーム向陽苑木曳野（定員120人）開設。 向陽苑木曳野訪問介護センター、陽風園木曳野生活支援センターを開設
4月1日	向陽苑崎浦の定員を120人とする
4月1日	陽風園木越デイサービスセンター定員変更（25人）。土曜日、祝祭日営業開始
4月1日	第三万陽苑デイサービスセンター、祝祭日の営業開始
4月1日	万陽苑デイサービスセンター土曜日、祝祭日の営業開始
4月1日	金沢市地域包括支援センターに名称変更（お年寄り地域福祉支援センターから）
4月5日	園祖小野太三郎翁百回忌法要並びに物故歴代理事長及び利用者追悼法要（陽風園本園改築整備事業、園祖暫定墓地整備、園花である白梅の記念植樹、法要、小野太三郎翁肖像画制作）
●4月1日	向陽苑崎浦（定員120人）改築
4月1日	陽風園経営基本計画2013（5か年中期計画）策定
4月1日	在宅事業推進局を陽風園地域福祉プラザと改称し、地域福祉総合相談事業を開始
4月1日	訪問介護事業（万陽苑と第二万陽苑）を統合し、陽風園訪問介護センターとする
4月1日	デイサービスセンター（万陽苑と第三万陽苑）を統合し、陽風園デイサービスセンターとする
4月1日	居宅介護支援事業を統合し、陽風園生活支援センターと陽風園木越生活支援センターとする
6月10日	陽風園訪問介護センターにおいて金沢市から移動支援事業の指定を受け事業開始
7月31日	管理棟（含む三陽ホーム拡張、診療所改築）安全祈願祭
10月1日	ハビリポート若葉において特定相談支援事業の指定を受け、障害者相談支援センターわかばの事業開始
12月18日	サービス付き高齢者向け住宅ドウ・リアン安全祈願祭
12月20日	天皇陛下より第二万陽苑に御下賜金
●1月30日	三陽ホーム耐震化工事完成
3月10日	あけぼの作業所耐震化工事完成
3月27日	管理棟（含む三陽ホーム拡張、診療所改築）竣工
4月1日	成年後見制度における法人後見制度を整備する
5月24日	創立140年記念事業
6月1日	サービス付き高齢者向け住宅ドウ・リアン（15室）開設

11代目理事長 古田 秀一

10代目理事長 奥 清

平成23年
(2011年)

平成24年
(2012年)

平成25年
(2013年)

平成26年
(2014年)

平成

●3月11日 東日本大震災

●高齢化率 24・1%

●4月1日「障害者自立支援法」改正（名称を「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」（通称・障害者総合支援法）に変更）

陽風園に勤めて 愛と感謝のわだち

～施設開設時の“スナップショット”～

就職3日目にして 宿直を経験

斎藤 正彦

◆初任地 … 本園 精神薄弱者援護施設
在職期間 … 昭和41年～平成9年勤務

最初は、精神薄弱者援護施設の指導員として、屋外作業員20人を担当しました。畜産と農耕の作業を指示し、特養前広場で作付け指導や大型ゴミ焼却炉の管理もやりました。就職3日目にして宿直を経験しました。夜、巡回をしていると、雪が吹き込んで雪溜まりができていた中央廊下を渡り、保安室をのぞくと、利用者4人が大火鉢に炭火を焚いて暖をとっていました。私は「寒いから火にあたらせてくれないか」と間に割り込みました。すると、「新しい職員か。あんたは面白い人だ。この場所で一休みする職員は、あんたが初めてだ」と笑われ、「今度か

ら宿直巡回の時には休んでいけばいい」と言ってくれました。この時が利用者と対等に話した最初でした。当時の通勤路は笠舞から竹やぶ続きで、冬は雪の重みで折れ曲がった竹を打ち払いながらの通勤がしばしばでした。

中央管理事務所の完成に伴い、泉水を造成することになり、若葉ホールの屋外作業班が担当となりました。植木職人の指導で穴掘りから始め、積石は道路拡張工事が出た戸室石を譲り受けました。石の積み降ろしは、チェーンブロックを使っていたので悪戦苦闘でしたが、10日ほどで何とか運び込むことができました。メインとなる大戸室石は、ワイヤーが切れてしまい、車で引いても動かすことができなかったのです、やむなく石を降ろした場所で作庭しました。

陽風園を通じて数えきれない出

会がありました。利用者の精神的ケアは、家族や身内の協力が不可欠との思いから、家族会として家族全体を施設運営に取り込んでいくことや、その家族会・保護者会結成に関わったこと、積極的に各団体へボランティア協力をお願いに掛けたことが、特に印象に残っている活動です。良い上司や同僚に恵まれ、陽風園という坂の上で思い切り唄い踊れたことに感謝するとともに、今後の園の発展を祈るのみです。



女性利用者が 見つかって…

古春美

◆初任地 … 特別養護老人ホーム第二万陽苑
在職期間 … 昭和60年～現在

短大の尊敬する先生から「陽風園はしっかりしたところだから間違いない」と言われ、履歴書を出しました。最初はバスで通勤していましたが、バスの本数が少なかったことで、勤務時間に合わせての通勤が大変でした。毎日毎日、早起きをして、今も昔もあまり変わっていない周辺の風景の中、よく歩きました。異動で何年ぶりかで第二万陽苑に行ったある時、夜勤明けで向こうの山から昇ってくる朝日を拝んでありがたいと思い、当時と変わらない良い眺めだと思いました。

ある夜、女性の利用者が所在不明となり、自衛隊にも協力してもらい、



第二万陽苑の裏山の竹やぶを探しました。無事に保護することができましたが、その女性が先輩職員を指差して「こいつは悪の親玉や。だから、隠れてやったんや」と言ったのには苦笑するしかありませんでした。長きにわたり勤務してきて、悲しかったことや辛かったこと、苦労したこととは、ありましたが、利用者やそのご家族にありがたうと言われたことが、この仕事について良かったと思える瞬間です。後進には、いつも「ありがとう」と「感謝」の気持ちを忘れずに仕事に臨んでほしいです。

利用者に手を 擦ってもらおう

北村 陽子

◆初任地 … 特別養護老人ホーム第二万陽苑
在職期間 … 平成5年～現在



私がこの道を選んだのは、おじいちゃん子で祖父が大好きであったこと、子どもの頃に万陽苑

に入所していた親戚夫婦へお見舞いに行った経験からです。第三万陽苑の周りは豊かな自然に囲まれ、山々や木々の緑が青々としたり色づいたり、さまざまな顔をのぞかせ、とても癒されます。しかし、一番での真つ暗な山道の帰り道や冬の道路凍結がとても怖かったです。

本苑の開設当時、利用者は万陽苑の旧館と新館から来られた方と新

入所の方で構成されていて、新施設の利用者の現状把握が大変であったこと、業務内容のベースはあったもののうまく軌道にのるまで試行錯誤の毎日でした。施設をきれいに保つ掃除も一苦労でした。私が仕事で落ち込んでいる時、認知症の利用者が「さびしそうな顔してる」と、手を擦ってくれました。暗い顔が、周りを不安な気持ちにさせてしまったことに気付くとともに、利用者から逆に元気をもらったことを覚えていきます。利用者や職員の楽しみの一つに毎年行われる夏祭りがあります。屋上で開催され、開放感があります。職員の余興などを見て喜んで利用者と見ると、こちらが嬉しくなりますし、楽しい時間を共有しているなあとひしひしと感じます。これからも、明るく笑顔でモットーに、協調を大事にしていきたいと思っています。

当時を振り返って

次世代へのメッセージ

栗田 則子

◆初任地 …… 精神薄弱者更生施設ハビリポート若葉
◆在職期間 …… 平成6年～現在

「当時の施設周辺の思い出」

三口新町から別所町への移転は11月でしたが、別所町は積雪量の多い地区で、車が坂道を上がりきれないことが予想されたので、移転までに車を四輪駆動に買い替えることを勧められました。移転した年の冬、見当通り内川小中学校前の坂道を上がりきれず、車が動かなくなるという事態が度々発生し、施設に救援要請したり、早番の時は、とにかく時間内に職場に着いて業務に携わらなければと、車をその場に乗り捨て、坂道を駆け上がり、やっこの思いでたどり着くということがありました。

園児と泣きながらのケンカ!?

新谷 京子

◆初任地 …… みずき保育園
◆在職期間 …… 平成17年～現在

息子が通っていた保育所の所長から、自宅近くに建設中の保育園が経験のある保育士を募集しているとの紹介を頂き、縁あって勤めることになりました。当時、みずき4丁目周辺にも家が建ち始め、整備された街を見て、果たしてこの地域に私は受け入れてもらうことができるのだろうかと思いがしました。

最初の1、2年目は0歳児の担当でした。新卒の保育士2人とチームを組み、私も初心に戻り一から勉強しなおす気持ちで仕事に取り組みました。大変でしたが、大きな責任と共にやりがいも感じることで

翌年、行幸啓のために道路が整備され、その様な事態は少なくなりました。

「幸せを感じたこと」

入社1年目の頃は上司に毎日叱られていました。叱られるために出勤していた様なもので、「栗田さん、今日も怒られていたよ」と他の寮で噂になっていたほどです。けれど職場に行きたくないと思ったことは一度もありませんでした。失敗して居残って仕事をしていたら上司が出前をとってくれ、じーんとしながらラーメンを食べたこともありました。愛情をいっぱい注いでもらってきたのだなと振り返っています。

また、実家が能登や富山の独身職員に、勤務が不規則で正月もゆっくり帰省できないだろうと、一人ひとりにおせち料理の小さなお重を持ち

き、エネルギーシユな毎日でした。

3年目からは5歳児の年長クラスを担当しました。0歳児を担当していた私のことを子どもたちは「赤ちゃん先生」と呼び、なかなか受け入れてくれず、お互い何となく遠慮し合い、もどかしい毎日でした。ある日、私に注意された1人の男児が「うるせー、くそばあぁ!」と怒鳴ったことがありました。1対1の時間を作って話をしましたが、私も大人気なく泣きながら話し、男児とケンカをしたような気持ちになりました。次の日のことですが、私が大太鼓を準備していると、その男児が「先生、オレ持ってる」と手伝ってくれました。そのことがきっかけで、園児たち全員と私の距離がどんどん近づいていくのが分かりました。私はいつの間にか「いい先生でいなくちゃ」と気負いばかりが先走り、人間的な気持ちで園児たちに向

たせてくれる上司がいて、側で見ても幸せを感じました。

「苦勞したこと」

最近、ダウン症の方が、ある年齢以上になると認知症様の行動をとったり、発作を起こしたり、ADLが著しく低下する場合があることが理解されてきていますが、私が就職した当時はダウン症の人は短命だという認識が強く、先に挙げたことは書物にも載っておらず、ほとんど理解されていませんでした。このような言動を見せる利用者を、どう援助・支援していけばよいか、職員皆で真剣に話し合ったことが、苦勞したことです。

「感謝していること」

山菜や菜の花など、春先に旬を迎える苦味のある食材は、精神のバランスを整える効果があると料理教

き合っていないかった、と気付かされました。

今、私自身が心から誇りを持つ「保育士」という仕事に本気で向き合うことができているのは、私の周りの全ての方たちや今までの経験のおかげだと感謝の思いでいっぱいです。その気持ちを真摯に保育に向き合うことで恩返しすることができればと思っています。みずき保育園も9年目となりますが、職員全員と協力し、「新しい保育園を作りあげていく」ことは、楽しかったことでもあり、苦勞したことでもあります。何もかもが一からだったので、一つのことを成しとげた時の達成感はずいぶん爽快感でした。私と共に仕事をしていた後輩保育士がどんどんたくましく愛情あふれる保育士に育っていく姿を見ると、私も負けていけないという気持ちが強まると同時に、そんな仲間や子供た

室で習ってきた母が、私の夜勤明けの日にはウドの酢味噌あえや菜の花のおひたしを用意してくれていました。本来寝る時間に寝ないで働いていると精神のバランスを崩しやすいので、体調管理のためにこのことなのですが、その心遣いが身に染みてありがたかったです。

「信念と次の世代に望むこと」

医療費をはじめ、社会保障費の削減が我が国の課題となっています。それを目標として行動を起こすというのではなく、私たちの働きかけにより健康で自立して人生を送れる人が増えた結果、社会保障費が削減されるというのが、社会にとって、もちろん一人ひとりにとって、幸せな未来図だと思います。そんな社会を構築していけるよう、自分も頑張りたいし、次の世代の方にも力を發揮していただきたいと思っています。

ちに囲まれている今が幸せな時間だとしみじみと思うと同時に、いつまでも自己研鑽を忘れず己を高めていきたいと思っています。





- ① 太三郎自宅
1864年(元治元年)に自宅にて収容開始
 - ② 1873年(明治6年)に家屋を購入、さらに付近の家屋5棟で180名程度救養
 - ③ 崇禅寺
太三郎の褒章授与を顕彰する碑がある
 - ④ 1879年(明治12年)に私費450円を投じて家屋6棟を購入
 - ⑤ 西方寺
旧小野家菩提寺
 - ⑥ 小野慈善院
1905年(明治38年)、金沢市常盤町に移転
 - ⑦ 宝円寺
太三郎の葬儀が執り行われた墓は後に本園に移転
 - ⑧ 金沢ふるさと偉人館
小野太三郎の足跡を常設展示
 - ⑨ 野町神明宮
白内障に罹るが、祈願を続けて100日目に治癒した
 - ⑩ 陽風園
 - ⑪ 野田墓地
太三郎の先妻センの父・島崎又右衛門の墓がある
- 西照寺(富山県高岡市福岡町小野)
太三郎の葬儀の際、西照寺の住職が来たと北國新聞で報じられる
太三郎、先妻センの骨を納めている

あゆみ

— 現在を見つめて —

家族の声



ご家族名
畑沢正美 さん
ご利用者名
橋場孝子 さん

母が向陽苑にお世話になり3年がたちました。面会や電話で日常の事や職員の方の話を楽しそうに話してくれます。病気を抱える母を本当に良く見て暖かい言葉をかけて下さり感謝致します。今後とも宜しく御願ひします。



ご家族名
中山美佐栄 さん
ご利用者名
中山さつ さん

此処に母が入所した時は引越の最中で皆さん忙しくされていました。手続きも遅れ、不満もありましたが、すぐに名前を覚えてくれたり心配事でも親身に答えてくれました。ここに来て良かった。皆さん忙しいのに、ありがとう。

利用者の声



三原シツ子 さん

向陽苑に来て8年になります。私はここへ自分で望んで来たので、良い所へ入れてもらったと思ひ喜んでいます。たくさんの方がいるので大変なこともあります。これからも向陽苑にずっと居させてもらいたいと思います。



中森美和 さん

私は昔、陽風園の寮母をしていました。今は老人が増え大変な時代になり“収容者”と言っていたのも“利用者”と変わり、生活する者の立場も変わりました。寮母さんの仕事は大変ですがとても優しく、利用者は幸せです。



花見



敬老の日



カラオケクラブ



納涼祭



養護老人ホーム

向陽苑 崎浦

自分らしく
いきいきと

責任者の声



施設長
勝田正樹
養護老人ホーム向陽苑(定員240人)の分割により、平成25年4月、全室トイレ付きのプライバシーの保たれた個室で明るい環境の建物に生まれ変わりました。なお、老人福祉法の措置施設である当苑は、介護保険施設とよく間違えられますが、介護を必要とする方も年々多くなっており、住まいの変更をご本人ならびにご家族に相談しながら進めています。皆さまの健康と幸せのために、知恵をしばっていききたいと思います。



トピックス



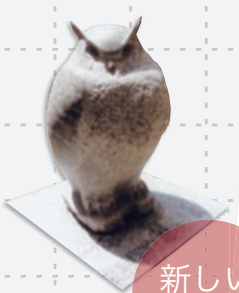
誕生会

新しい向陽苑崎浦の誕生会は、外の風に触れ和やかな光の下、暖かい雰囲気でするように、見晴らしの良いテラスを利用し行っています。利用者の方々の笑顔がいっぱいの誕生会になっています。

春と秋の旅行



行事の一つとして春と秋に日帰り1泊の旅行を行っています。染め物・そば打ちなど普段施設の中で体験できないことを盛り込み、楽しい時間が過ごせるよう企画しています。



新しい施設



平成24年4月、向陽苑は崎浦と木曳野に分割されました。新しくなった施設に利用者の方々も大変喜んでます。今後も皆さまの生活がより良いものになるよう、力を注いでいきたいと思っています。



向陽苑崎浦は、養護老人ホームの草分けともいえる伝統ある施設で、環境上もしくは、経済的理由で在宅での生活が困難な高齢者の方に「生活の場」を提供しています。長年の経験と日々の研鑽に基づき、利用者の一人ひとりに適した生活環境をつ

くり、プライバシーと自主性を尊重しながら、最適な支援ができるように努めています。行事やクラブ活動に、ご家族や地域、ボランティアの皆さまの参加を呼びかけ、地域に根ざした施設になるよう励んでいます。

家族の声



ご家族名
浅井広美 さん
ご利用者名
横井本江 さん

入所当初は、集団生活という事もあり、辛い思いもしていたようで心配しておりました。木曳野に移り、環境も変わりましたが、面会に行くとスタッフの方がいつも笑顔で優しく接していただいております、安心してます。



ご家族名
板谷和子 さん
ご利用者名
竹野すず さん

市の紹介で向陽苑の事を知りました。ここに入る前は義母の食事面や健康面での心配が絶えませんでした。今では素晴らしい施設と心優しい皆様にお世話になり、感謝の気持ちで一杯です。

利用者の声



三日市君枝 さん

私は、向陽苑に入居して3年7ヶ月になります。毎日、施設の近くを友人と散歩したり、読書することを日課としております。また、部屋も個室となったので、自分の時間を有意義に過ごす事が出来、満足しています。



中村保義 さん

木曳野は、建物が新しく気持ちが良いです。毎日、新聞を取りに行ったり、食事後の下膳を行ったりと、自分が出来る事を手伝っています。他にもクラブ活動や友人との会話を楽しみながら過ごしています。



花見



クラブ(お花)



買物



タオルたたみ



向陽苑 木曳野

養護老人ホーム

自分らしく
いきいきと

責任者の声



施設長
能本浩武

平成24年に三口新町の向陽苑を分割し、木曳野に新築移転した新しい施設ですが、その源流はいわゆる養老院として、老人福祉法制定以前からの歴史があり、園祖の仁愛の精神を受け継いでいます。近隣は新興住宅地であり、子どもたちの声も多く聞こえ、活気があるこの地域に根ざしてまいりたいと存じます。



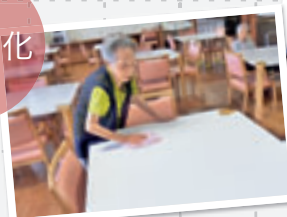
トピックス



園芸

月に1回、天気の良い日に園芸活動をしています。1階食堂横に朝顔の種をまき、緑の天然カーテンを作りました。他には、プランターにシクラメンなどの花苗を植え、お世話をしながら花が咲くのを心待ちにしています。

一斉美化



毎月第1水曜日に自分の居室や食堂・サロンなどの清掃活動を行っています。天気が良い時には、苑周辺の草むしりもしており、いつまでもきれいな施設を維持していきたいです。



散策



暖かい時期に月2回、クラブとして活動しています。足腰を鍛えたり、新しい土地での土地勘を磨いたりすることを目的としており、苑周辺の公園や金沢港での散策を楽しんでいます。

太極拳



月に1回、講師を招いて太極拳を行っています。身体を動かすことが好きな方から、健康に関心を持つ方まで参加されています。健康・長寿に良いとされているので、みなさんも真剣に取り組んでいます。

当苑は、海みらい図書館や警察署など公共施設がある文化的で安心できる街に位置しており、近隣には、スーパーや衣料量販店などがあり、生活に適した環境となっております。また、一人ひとりの個性や生活スタイルを大切にしながら、自分らし

く自由な時間を過ごして頂けるよう、全室個室でプライバシーを尊重しています。なお、各部屋にはトイレも完備されております。私達は、入所者及び地域の方々に愛される施設づくりに努めています。

家族の声



ご家族名
島進一 さん
ご利用者名
島アヤ子 さん

私の母は87歳ですが、自宅で転倒し大腿部を骨折、車いす生活となりました。病院から退院を言われ、介護施設を懸命に探していましたが、運よく万陽苑に入居させてもらうことができ、家族ともども救われました。



ご家族名
平澤卓朗 さん
ご利用者名
角間つる さん

一人になって腰を痛めてから、身心の不具合を自覚し自分で手続きをして入苑。初めは帰りたい、死にたいなどと言っておりましたが、今では、「死ぬのはイヤ」と言っております。長い間、万陽苑が培い育ててきた「思いやり」の賜です。感謝申し上げます。

利用者の声



森美和子 さん
私がお世話になっている万陽苑は、職員の皆さんの話しやすく気さくな態度と家庭的な雰囲気

に安心してあります。食事美味しく毎日きちんと食べており、ここでの暮らしに大変感謝しております。いつもありがとうね。



清水進 さん
我々入所者が元気に安心して暮らしていけるのも、ひとえに職員の方々の援助の賜であり

ます。全国的にも有名な万陽苑で生活できることを幸運に思っております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



余暇活動



集い(生花)



エブロンたたみ



レクリエーション



トピックス



ゲーム大会

11月にはゲーム大会が開催されます。6チームに分かれ、シーツバレーや玉入れ、ボーリングなどで競い合います。職員参加の競技もあり、共に優勝を目指し大ハッスルします。

新年会



新年会では、昔ながらの遊びや初釜を行います。利用者の方と共に新年を迎えられることは大変喜ばしいことです。職員は晴れ着姿となり、皆さんにお披露目し、普段とは違う一面を見ていただいています。



ドライブ旅行



春はバラ園、夏は海、公園へのドライブや秋の日帰り旅行など外出行事を多数企画しています。この日を楽しみにしていると話す利用者も多く、季節に応じた楽しさを皆さまに感じてもらえるよう工夫しています。



当苑は県内で最も歴史のある特別養護老人ホームです。可能な限り家庭生活に近い環境づくりを心掛け、高齢者一人ひとりの生活を大切に、長年の豊富な経験により培った介護技術と敬愛の心で、有意義な生活を送ってもらえるよう、心をこめて支

援しています。当苑は金沢中心街に近く、交通の便が良く、ご家族の面会などにとっても便利です。医療面では併設の診療所のほか、総合病院も近くにあり、安心して生活を送ることが出来ます。

万陽苑

特別養護老人ホーム

支え合う心 共に生きる力
そして今日の幸せ

ライフサポートアドバイザー (L S A)

高齢者世話付き住宅
生活援助員派遣事業

金沢市からの委託により、県営住宅の高齢者世話付き住宅に第二万陽苑から生活援助員を派遣しています。入居者の方が自立して、安全かつ快適な生活を営むためのサポートを行っています。

サービス内容

- ・生活に関する相談
- ・安否の確認
- ・一時的な家事援助
- ・緊急時の対応(24時間)
- ・関係機関との連絡
- ・その他日常生活上必要な援助 など

高齢者世話付き住宅

(シルバーハウジング)の入居対象者

- ・60歳以上の単身世帯
- ・60歳以上の高齢者のみからなる世帯
- ・障害者のみからなる世帯
- ・障害者と高齢者
- ・夫婦のみの高齢者世帯(夫婦の一方が60歳以上ならば可)
- ・障害者の単身世帯
- ・障害者とその配偶者のみの世帯

責任者の声



施設長
小西眞也

第二万陽苑は、医王連峰や犀川が展望できる高台に位置し、四季折々の季節が体感できる豊かな自然に抱かれた地にあります。1年を通して、楽しくゆったりと、潤いのある生活を送っていただけるよう、様々な行事や交流の場を設けています。今年27周年を迎える家族会の会員・準会員は100人を超え、施設の行事に積極的な支援を頂いています。



利用者の声



平野権七 さん
ご家族様

人生とはご縁の積み重ねだと感じます。同室となった方々、職員の方々、家族の皆、人と人とのつながりは永遠だと思います。一つひとつの出会いが私の喜びに繋がっています。私はきっとご縁があったからここにいます。

家族の声



ご家族名
丸岡美津子 さん

いつも変わらぬ苑職員の方々の気配りと優しい笑顔。年間を通しての楽しい行事の数々。お世話になった叔母さんも何一つ不平を言うことなく満足気に苑での生活を送ったようです。



初釜



たけのこ祭り



ドライブ



年忘れ会

トピックス



ショッピング
～家族会の皆様へ～

月に1度、利用者と一緒にお花見ドライブへ行ってきました。満開の桜の下でお菓子を頂きました。食っている時の素敵な笑顔を見ると、年を重ねても花より団子は変わらない様子で、春を満喫されていました。

お花見
ドライブ



4月に利用者と一緒にお花見ドライブへ行ってきました。満開の桜の下でお菓子を頂きました。食っている時の素敵な笑顔を見ると、年を重ねても花より団子は変わらない様子で、春を満喫されていました。

海風浴



7月に利用者と一緒にお花見ドライブへ行ってきました。この日はお天気にも恵まれ、久しぶりの海を眩しそうに眺めていました。潮風にあたり、若い頃の思い出を話され、笑顔いっぱいの1日になりました。

すいかの
収穫



5月には中庭にすいかの苗を植えました。日々、利用者と一緒にお花見ドライブを行い、成長を見守っていました。8月には丸々としたすいかを3個収穫することができ、利用者で美味しく頂きました。

医王山と戸室山を望む恵まれた自然のなか、みなさまが健康で心穏やかに、生き生きと暮らせるよう介護サービスの提供に努めています。家庭的な雰囲気の中で四季折々の行事や各種の集いを通じて日々の生活をお楽しみいただいています。

健康管理は看護師によってきめ細かくケアするほか、レクリエーションを通じて心身機能の維持・向上に努めています。また、地域福祉の拠点として、短期入所やL S Aのサービスも行っています。

特別養護老人ホーム

第二万陽苑

和やかに穏やかに
手と手を取りあって

家族の声



ご家族名
山崎礼子 さん
ご利用者名
中村スミ子 さん

母がお世話になりましてから食事、体調のチェックと細やかなところに気がつかってください、毎日頭の下がる思いでいっぱいです。母も昔の思い出に浸りながら伸びやかに楽しく過ごさせていただき、いつも感謝しています。



ご家族名
杉木奈津子 さん
ご利用者名
谷口朗子 さん

祖母がお世話になるようになってから、良い関係を保つことができ、昔のように穏やかに話もできるし、会う度に顔色も良くなっていくようです。いつも温かい対応をしてくれる職員の方々にはとても感謝しております。

利用者の声



石垣イト さん
みんなが幸せに暮らせて、もっと自分の心がキレイになればいいいつも仏壇に手を合わせて

います。ここの食事は美味しいし、生け花や書道の集いも下手やけど呼んでくれるから、毎日楽しいし言うことないです。



山本とめ さん
毎日、ご飯あたってお風呂にも入れてあたって言うことなしや。パチが当たるんでないかと思う

くらいよくお世話になっています。こんなばあばの世話してあたってきがねやけどみんな優しくしてくれて感謝しています。



節分祭



手工芸の集い



ゲーム大会(風船バレー)



夏祭り



特別養護老人ホーム

第三万陽苑

笑って笑って
あしたもいい日

責任者の声



施設長
安田耕治
第三万陽苑は、内川地区三小牛町の自然に恵まれた環境に立地し、「その人らしさ」

の介護を目指しております。そして、金沢市の老人福祉の一つの拠点として、地域の老人福祉のよりどころとして、安全で安心な、そして信頼される施設となるように努めております。



トピックス

ひらがりサロン



毎年、地域の皆さんとの交流や学習の場になればとの思いから、地域の公民館で「ひらがりサロン」を開いています。ひらがりサロンでは、管理栄養士が食中毒の予防などの講座を開いており、今後は介護教室などにも取り組んでいきます。

特別献立



当苑では毎月、旬の食材を使った特別献立を提供しています。最近では、舟盛りや竹の子づくしを行いました。見た目の華やかさも加わり、皆さんによりいっそう季節を感じていただける献立作りを行っています。

ふれあい図書



玄関ロビーにて、ふれあい図書コーナーを開設しています。介護・福祉の分野はもちろん、子ども向けの本など様々な分野の書籍を揃えて、地域の方々をはじめ、ボランティアや実習生の皆さんが交流や学習の場として使っていただければと思います。

園芸の集い



農業経験者が多いことから、興味を持って参加してもらおうと園芸の集いをしています。畑は小さいですが、トマトや胡瓜、さつま芋、茄子等を植え、慣れない職員が利用者の皆さんに教えていただきながら一緒に取り組んでいます。

自然の恵みをたくさん授かったこの地で、四季折々の移ろいを身体で感じながら、心豊かに生活を送っていただきたいと願っています。
介護老人福祉施設として、一人ひとりの人格を尊重しながら、個々の想いに寄り添う支援を心掛けています。

また、地域福祉の拠点として、ボランティア活動や介護実習の受け入れ、福祉講座の開講、地域の小中学校や公民館との交流などを積極的に行い、安全・安心で信頼される施設になるように努めています。

陽風園地域福祉プラザ

あなたの笑顔を大切に…
在宅生活応援します

陽風園地域福祉プラザは、地域住民のあらゆる福祉ニーズに対応できる在宅事業全般の足がかりとして編成された、陽風園140年の歴史の中で最も新しい組織です。

（2ヶ所）、居宅介護支援事業（2ヶ所）、地域包括支援事業のほか、あらゆる福祉相談を受付ける地域福祉総合相談室を設け、在宅福祉サービスの拠点として、その役割を果たして行きたいと考えています。

陽風園訪問介護センター

ホームヘルプサービスは、援助を必要とする高齢者や障害者の方のお宅を訪問し、必要な介護や生活の援助を行うサービスです。経験豊富なスタッフが、自分らしい生活と安心をお届けします。



陽風園デイサービスセンター

陽風園デイサービスセンターは、「ゆったり」、「のんびり」、「いきいき」をモットーに、笑顔あふれる時間をすごしてもらっています。いくつになっても新しいことに挑戦し、楽しみを見つけてもらえるよう、支援しています。



地域福祉の総合相談室

平成25年4月に開設しました。高齢者をはじめ、障害のある方、子どもに関する相談など福祉に関する相談を総合的にお受けします。介護などでお悩みの方、お気軽にご相談ください。
TEL076-261-4165



陽風園木越デイサービスセンター

陽風園木越デイサービスセンターは平成17年に設立し、平成25年で9年目を迎えました。手芸等の作品作りと転倒予防を目的としたリハビリを積極的に行っています。皆さん一人ひとりに楽しく喜んでもらえるよう支援しています。



金沢市地域包括支援センターみつくちしんまち

金沢市地域包括支援センターみつくちしんまちは、金沢市の委託を受けて十一屋、菊川、崎浦、内川の4地域を担当し、専門の相談員（社会福祉士・保健師・主任介護支援専門員）が福祉に関する総合的な相談に電話・面談・訪問等で対応しています。



陽風園生活支援センター 陽風園木越生活支援センター

生活支援センターは、市内2ヶ所（三口新町、木越）で介護保険制度に関する申請・サービス等に関する相談・調整・計画作成・介護保険事業所の紹介を行い、自分らしい生活が送られるよう、支援しています。



責任者の声



施設長
室野慎一

平成25年4月に在宅事業を陽風園地域福祉プラザとして再編成し、新たに総合相談室を設置しました。高齢者や障害のある方が出来る限り住み慣れた地域で生活を続けられるよう支援するのが私たちの役割です。地域とのつながりを大切にして安心の町づくりを目指しています。



サービス付き高齢者向け住宅 ドゥ・リアン

サービス付き高齢者向け住宅は高齢者が安心して地域で暮らせるバリアフリーの住まいです。安否確認や生活相談で入居される方々に安心をお届けします。「暖かな絆」という意味の名をもつドゥ・リアンでは全室15部屋、すべてが30㎡以上となっており、安心に加えて快適さを提供します。



家族の声



ご家族名
井波喜久治 さん
ご利用者名
井波喜義 さん

自身の体調がすぐれないこともあります。月に1回は、面会に来れるようにしています。昭和54年に入所してから、長い間陽風園にお世話になっています。本人は、よく食べて、元気に過ごしているので、とても感謝しています。



ご家族名
山崎美智子 さん
ご利用者名
天井美栄子 さん

私も高齢となり、今は年金で生活しています。娘が入所して19年が経ち、長い間お世話になっており助かっています。娘も元気に過ごしているので、とてもうれしく思います。

利用者の声



覆平良信 さん

今は78歳になり、入所した当時は、北陸三県のスポーツ大会で2、3年に1回は優勝していたが、なかなか身体が動かなくなってきました。周りのみんなも同じように年を取ってきているが仲良くやっていきたいです。



橋爪克子 さん

三陽ホームに入所して20年が経ち、みんなとの生活にも慣れ、仲良くやっています。日常生活での楽しみは余暇時間で、テレビやラジオ鑑賞を行い過ごすことや、近くのスーパーへ買い物に行くこともあります。



室内作業



クラブ活動



外出支援



外出支援



責任者の声



施設長
義卜昭雄

生活保護法を根拠とする救護施設は、セーフティーネットとして存在し続けていますが、

戦後の高度経済成長から現在の少子高齢化社会への変遷の中で、社会福祉制度も変化し、この国の姿も随分と変わってきたように思います。そういった中で、生活保護に至るケースも多様化し、職員の援助技術も幅広く、深い人間性が必要になってきていると感じています。



秋の旅行



秋に、一泊旅行と日帰り旅行を実施しています。様々な行事の中でも、旅行を楽しみにしている利用者は多く、旅行中は普段以上に笑顔が多く見られます。

年忘れ会



平成23年度から、昼食にバイキング形式の食事を実施しています。珍しさもあり、いつもと違う雰囲気を楽しんでいます。また、保育園児によるマーチングバンドの演奏もあり、子どもたちと触れ合っています。

トピックス

花見



桜の時期になると、兼六園や卯辰山などへ花見に出掛けます。利用者の中には、花より団子の方もいますが、桜を眺め良い気分転換になっています。

北陸三県救護施設利用者親善スポーツ大会



北陸3県にある救護施設5施設が集まり、利用者間の交流を深めるため、スポーツ大会を行っています。身体を動かすことを楽しみ、優勝目指して頑張っています。

当ホームは、身体や精神に障害があり、経済的な問題も含めて日常生活を送るのが困難な人たちが、健康に安心して生活するための生活保護法による施設です。利用者の方々が少しでも自立した生活が送れるよう、それぞれの状況や希望に応じた自立

支援を行っています。各作業や年間行事のほか、定期的に近隣の清掃を行う地域清掃ボランティア、また、小学生の夏休みには、チャレンジ教室を実施し、地域交流も行っています。

三陽ホーム

自立した社会生活を
目指して!!

家族の声



ご家族名
詠 美智子 さん
ご利用者名
詠 行夫 さん

心筋梗塞を患った私と、その付き添いのちょっとメタボの妻の健康のために歩くことを心掛けています。この道は子どもたちを保育園や小学校へと送り迎えをした道、行夫の歩くあとから先生が無事家に帰るが見届けにきた道、町内の広場に遊びに行く行夫の後をそっとつけた道、家族の幸せを願って今日も一歩前進を。



ご家族名(成年後見人)
宮村直人 さん
ご利用者名
金丸ユキ子 さん

ご利用者の金丸ユキ子さんの成年後見人として、金沢家庭裁判所から財産管理のために指名を受けた司法書士の宮村直人です。緑豊かな環境の中で暮らす金丸さんの幸せそうな笑顔を見ると、この入居生活を続けられるよう、スタッフの皆さまと共に頑張っていきたいです。

利用者の声



三野さと さん

私は、2丁目の友達と遊ぶのが大好きです。友達や職員のお手伝いも楽しいです。みんな私のことを「大好き」と言ってくれるので、とても嬉しいです。これからもみんなと仲良く過ごしていきたいと思います。



濱垣 傑 さん

僕は、軽作業班に参加して箸入れをしています。袋に箸を入れていって、どんどん作業が進んでいくのが楽しいです。これからもいろんな人とおしゃべりをして、みんなと仲良くしたいです。



作業風景



クラブ



外出



日常の風景



責任者の声



施設長
中川寿一

利用者の皆さんは、納涼祭や旅行、収穫祭など季節感あふれる催し物が大好きです。参加される利用者の皆さんもご家族の方々とともに心が通い合う“温かい行事”を実施するよう心掛けています。四季折々の行事の中で、相互理解によって互いに共感しあうことこそ、信頼関係の構築に繋がると考えています。これからも皆さんに楽しく喜んでもらえるメニューづくりに取り組んでいきたいと思っています。



希望者旅行

年に一度、利用者の方の希望に沿って旅行に出掛けます。県内の温泉や東海地方など、少し遠方での旅行も計画しています。バスや電車を利用した移動や、車窓からの景色、宴会やお土産選びも楽しみの一つです。

内川小中学校との交流



地域交流の一つとして、内川小中学校の運動会に参加しています。生徒の応援をしたり、一緒に踊ったり、楽しい時間を過ごしています。このほかにも、内川花いっぱい運動や盆踊りなど、地域の方々との交流を深めています。

トピックス



納涼祭

納涼祭では、日中に浴衣や甚平を着て魚釣りや輪投げなどの縁日の出店を回り、夜になるとやぐらを囲み盆踊りを踊ります。皆さんきれいな浴衣を着て、得意の盆踊りを踊り、楽しんでいます。



フェスタ



文化祭と収穫祭を兼ねた“フェスタハビリ”を開いています。模擬店や作品展示、舞台イベントを行い、施設全体がお祭り一色となり盛り上がります。ご家族の方、ボランティアさんが大勢参加され、一緒に楽しい時間を過ごしています。

ノーマライゼーションの理念のもと、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりが自分らしく、生きがいを持って生活を送ることができるよう支援することを目的としています。

成する個別支援計画に沿って支援を行っています。

また、地域の行事や地元小中学校の運動会等の活動に参加し、災害時には福祉避難所として開放するなど、地域との絆を深めています。

ハビリポート若葉・若竹

社会に向けて
旅立つ港

家族の声



ご家族名
木村進一 さん
ご利用者名
木村朋子 さん

あけぼの作業所を利用して、はや15年。毎日、元気に通所する姿を見て喜んでいます。『健康づくり』が悩みの種。ただ、歩くようにうながしてもなかなか歩いてもらえないので、休日は催し物会場や観光地等を訪れ楽しみながら歩くことを心がけています。



ご家族名
坂田 均 さん
ご利用者名
坂田翔二 さん

あけぼの作業所で世話になってはや10年、毎日作業所に行くのも嫌がらず、熱があっても行きたいと言い、なだめるのに一苦労しています。園祖と義兄の祖父が彦三で慈善事業を行っていた関係もあって、不思議な縁を感じております。

利用者の声



黒橋秀治 さん
あけぼの作業所を利用して10年あまり経ちました。自分に合った作業内容で毎日とても楽しく通っています、これからも、みなさんと仲良く作業していきたいと思っています。



木谷加世 さん
あけぼの作業所では、たくさんの行事があり毎日楽しく通っています。15年あまり通い続け、多くの友達ができました。これからも元気に仲良くあけぼの作業所で過ごしていきたいと思っています。



花見



漬物班作業の様子



軽作業班作業の様子



焼菓子班作業の様子



責任者の声



施設長
東一房

あけぼの作業所の利用者は、明るい仲間と生き生きと働いています。利用者の皆さんは写真が大好きで、行事のときはみんな明るい笑顔がいっぱいで何枚も写ります。また、美味しいと評判の漬け物や焼菓子、箱折り・タオル入れの軽作業などの商品を通し、地域の方とふれあい、地域の一員としての生きがいを高め、働く喜びを感じられるところです。



トピックス



漬物

漬物作業班では、以前から兼六園よりいただいた梅を使用し、ねり梅を製造しています。平成23年に地元が誇る世界的有名パティシエより、焼菓子に使用したいとお話があり、地域を代表する銘菓に使用されています。



焼菓子

焼菓子作業班では、主力商品のクッキーやマドレーヌなどの焼菓子が食品関係の企業よりオファーを受け、現在では市内のスーパーでも販売しております。今後も商品、販売網の拡大に努めてまいります。



軽作業

軽作業班では、主に箱折りやタオルたたみを行ってきましたが、現在ではくずきりやおかきなどの食品のラッピングも行っております。利用者の方々が初めて携わる作業にいきいきと参加されています。



社会参加

当作業所では社会参加の一環として、外部での清掃や販売を行っています。このような活動を通して様々な方と関わることを楽しみにしている利用者の方も多く、積極的に参加されています。

利用者が自立した社会生活を営むことができるよう、生産活動を通して、就労に必要な知識や技術の向上のために支援を行うとともに、利用者の心身の状況や希望する生活を把握し、適切な相談や援助も行っています。

生産活動は、焼菓子製造作業や漬物製造作業、軽作業があり、利用者の能力を生かした活動ができるよう配慮しています。また、栄養を考慮した食事の提供や、安心して通所できる送迎サービスも実施しています。

就労継続支援B型

あけぼの作業所

あかるくてけんこうで
ほがらかでのびのびと

家族の声



ご家族名
山本祥平 さん
ご利用者名
山本直幸 さん
佳弘 さん

早いもので長男がお世話になり5年の月日が経ちました。各種行事や平素の保育士との関わりから、子どもたちへの温かさを感じます。この園の風土が今後も続いていくように、ますますびび発展を祈っております。



ご家族名
高桑和香 さん
ご利用者名
高桑小梅 さん
みずき保育園には子だけでなく親もずいぶん育てて頂いたなと

感謝しております。不安だらけの子育ても、先生方の優しい言葉に助けられました。卒園後も温かく見守って頂きとても嬉しく心強く感じています。

利用者の声



みずき保育園
第2回卒園児
丸岡実桜 さん

一番の思い出は運動会のスーパーピラミッド。練習は成功できなくて、本番はハラハラドキドキ。なのに、見事大成功。一番下の段から顔をあげるとママや先生方の嬉しそうな顔が見えた。そして私もうれしくなった。



みずき保育園
平成25年度5歳児
山森華栖葉 さん

保育園で楽しいことは？
—おままごと！お母さんになったり、お姉ちゃんやバブちゃんになったり、お手伝いお母さんにもなるよ！ハンバーグとオムライスとポテトを作るんだ！みうちゃんも一緒にするよ！



園舎全景



食育(クッキング体験)



子育て支援事業(ひなたぼっこ)



戸外保育活動



みずき保育園

生きてるってことは
素晴らしい

責任者の声



園長
大川信子

みずき保育園は、開園より338名の卒園児を送りだし、今年で10年目を迎えます。元気いっばい

の子どもたちは園の宝物。職員は、子どもたちの健やかな育ちと生きる力の基礎を身に付けるため、一人ひとりを大切に保育にあたっています。今後も地域の方々に見守られながら、利用しやすく喜ばれる施設になるよう、力を尽くしていきたいと思っています。



トピックス



年長児
追い出し
餅つき

餅つきは年末恒例の行事ですが、追い出し餅つきは卒園する年長児とその両親が参加する卒園式前の最後の行事です。4月には小学生になる子どもたちにエールを送る力餅。昔ながらの臼と杵を使って楽しめます。



お父さんと
遊ぼう会



初夏の風が吹き渡る中、お父さんが大集合。育児の素晴らしさや、家族の絆を感じてほしいとの願いを込め、相撲や木工工作、ウォークラリーなどの遊びで絆を深めています。みずき保育園のお父さんはイクメンです。



みずき
保育園
開園

平成17年4月1日みずき保育園開園。子ども達同様、保育士にとっても全く新しい環境の中、期待と不安でいっぱいでした。子どもたちがいかに安心して楽しい保育園生活が送れるか、試行錯誤しながら無我夢中の毎日でした。

デイ
サービス
訪問



デイサービス訪問では互いの触れ合いを大切にした遊びを楽しんでいます。今では利用者さんの膝に座ったりと微笑ましい姿が見られます。最近減少してきた世代間交流のきっかけにもなってくれればと思います。

「生きてるってことは素晴らしい」を保育理念とし、人と人のつながりを大切にしています。心通じ合う喜び、感動する喜び、生きることの喜びを感じ、愛と希望の持てる子に成長してほしいと願い、一人ひとりの

子どもの人権を尊重しながら、四季折々の活動を通して、見て触れてからだで感じる保育を心掛けています。子どもたちが仲間と共に育ちあえる場、親も子も育ちあう場、そんな保育園でありたいと願っています。

事務局

事務局は平成25年度から企画課・総務課・経理課・職員課の4課体制で、施設運営がしやすくなるような潤滑油の役割を担っています。これからも利用者の安心・安全、職員が楽しく働きやすい職場づくり、地域住民に愛される福祉の拠点づくりのため邁進していきます。



責任者の声



専務理事
永井信幸

事務局は、本園利用者の皆さんの活力の源となるおいしい給食をお届けする大切な役割に加え、事務部門では「ヒト・モノ・カネ・情報」の4つの経営資源を陽風園全体にバランスよく供給することにより、現場を支える重要な役割を担っています。平成25年4月には、さらなる機能強化を図るため組織の再編を実施したところであり、本園改築整備後を見据え、経営基本計画の着実な実施により、事業の継続と発展を期してまいります。

診療所

診療所は、標榜科名が内科で、所長および金沢大学、金沢医科大学などの医師が診療に当たっているほか、心電図・X線レントゲン装置を装備し、施設を利用されている方々の医療ニーズに応えるべく、健康で安心した生活が送れるよう支援をしています。

また、福祉施設に併設された医療

機関として、福祉の心を忘れることなく、患者の人格を尊重するとともに、適切な医療が提供できるよう努めています。

責任者の声



診療所長
河合昂三

今後ますます高齢化社会が進み、高齢者施設への入所者が増えると思われ、入所した施設が終の棲家と思うでしょう。その思いを大切に、人生の最期の苦しみのないように、看取りの医療を心掛けていきたいです。



給食課

陽風園(本園)は特養・養護・救護・授産との複合施設です。全施設の利用者約480名の食事を一手に担っているのが給食課です。毎日の生活の中で食事は大きな楽しみのひとつに挙げられます。利用者の中には高齢の方も多く、車椅子の方や生活に介助を必要とされる方も少なくありません。また、基礎疾患を持たれた方には減塩食・糖尿病食などの病状に合わせた療養食を(管理)栄養士が中心となっ

て個別対応しています。栄養バランスはもちろん、時の移ろいを身近に感じ、頂きたくお皿の上で四季を演出したり、郷土の味を再現することなどにも私達は力を入れて取り組んでいます。

「今日も美味しかったわ」
「いつもありがとうね」
時にはお叱りの言葉も頂きながら、利用者の笑顔と声が私達給食課スタッフのパワーの源となっています。



「目でも味わうー新しい食形態へのチャレンジ」

給食課では食べ易い介護食作りにも力を入れています。今まで当たり前に出されて来た“刻み食”は、最近では誤嚥を引き起こす危険性が高いとされ、刻む事で見た目も食欲をそそるものではありませんでした。そこで、食材自身を軟らかくする事によって、咀嚼しやすくなる事で食べ易く、今何を食べているのか視覚で理解できるよう、調理の仕方も工夫しています。舌で味わい、目で味わい、普段私達が食べている食事に近い新しい介護食が出せるよう頑張っています。



「よりおいしく、より安全な食事作りを目指して」

平成25年春に新調理室が完成し、それに伴いスチームコンベクションオープン(スチコン)とブラストチラーが導入されました。スチコンとは蒸す・焼く・煮る・炒めるといった一通りの調理が1台で行え、食材のもつ栄養素の損失も少なくなる調理機です。スチコンで調理したのち、ブラストチラーによる冷却、保存を行うことで、菌の増殖を抑えより安全な食事作りが可能となりました。調理工程の組み立てや時間配分の自由度が高まり、今まで行えなかった手の込んだ料理、変化のある食事作りが行えるようになりました。



園祖小野太三郎の心を受け継ぐ作品を紹介。

陽風短歌

福祉の崇高なる使者として、福祉の原点にせまる介護・支援・保育などの日々の業務を題材とした福祉短歌を全職員に募集し、心に残る優秀作を掲載しました。

かすかなる息の温もり手に感じ
今夜も無事を心に願う

澤野井美香

食事終えだまつてそつと手をあわす
あなたの姿に私も感謝

古田さとみ

かみ合わぬ言葉と言葉重ね合い
もっと知りたい あなたの心

大島一洋

花ひとつ 翁の像に手を合わせ
後姿に我も一礼

金田 浩信

陽風をさえぎる雲も多けれど
熱き心に いっしか陽が射す

義ト昭雄

内緒だと そつと握った手の中に
昔ながらの飴玉ひとつ

輪島 美代子

ありがとう 無事に過ごせた一日を
明日もよろしく いえこちらこそ

青山 恵美子

皺多き あなたの手ととり 爪切れば
深まる いとしさ 感ずるえにし

粟田 則子

なにげない言葉をかけて歩みより
お年寄りとの距離を縮める

石川 智志

声かけて心をかけて 寄り添えば
こぼれて嬉し 満面の笑み

川口 直矢

空っぽのお皿の中にあふれてる
食べる喜び 作る喜び

隅屋 優

叶うなら掃除の手を止め 縁側で
寂しさ癒す娘になりたい

瀬戸 春美

おかあさん呼ばれて 返事困ります
あなたは八十 私は二十

平野 たえ子

入院や もう帰れぬと肩落とす
後姿に負けるな ガンバレ

本田 多津恵

騙された家に帰ると云う母に
長女説得 三女泣き付く

牧谷 昇

「歩きたい」平行棒を掴む手は
言葉に出さぬ 明日への力

井上 香織

訪問に 待っていたのと喜ばれ
冷茶で気付く 夏の始まり

大谷 美里

夏の夜は はだけた布団なおしつ
今夜も無事にと願う朝まで

岡野 悠貴子

楽しいと思って生きてほしいから
あの手この手で笑顔引き出す

近藤 幸

家族来て心配ないよと 話す声
溢れる優しさ 寂しさ隠して

辰田 朝子

白寿でも子の心配する姿見て
尊く思う 親の愛情

谷口 幸子

コール鳴り 急いで行くと何もない
寂しいからとぼつりつぶやく

松田 美晴

「家帰る」「明日帰ろうね」合言葉
あなたの笑顔に 心で御免

谷内 和子

突然の別れとなりて ふり返る
幸せでしたか 支えになれたか

谷内 優子

「どなたさん？」微笑む母の肩を抱き
身体気遣う息子の白髪

安田 耕治

半袖を寒くないのと気遣われ
汗を流しておむつ交換

山崎 実華

シワシワの笑顔の影に悲しみも
続けと願う 穏やかな日々

山本 いつみ

いつまでも一緒に暮らそうこの家で
二人の願い叶えてあげたい

中川 里美

介護職 出会いと別れをくり返し
辛さ乗り越え 今日も頑張る

中嶋 育恵

できること 増やせるように支援する
あなたの笑顔も増えますように

中町 泰子

「ど、行くの？」家に帰るのさようならと
笑顔のあなたを今日も引き止め

中村 美希子

実習生 来るたび みんなの人気者
見習うべきは 謙虚な気持ち

松田 智

ねえ聴いて 話す子どもは 口よりも
体全体で 大表現

村先 美緒

あゆみ

――未来に向かって――

叙勲・褒章受賞者一覧

氏名	受賞日	賞賜	功績
おの たさぶろう 小野太三郎	明治18年2月20日 (1885年)	藍綬褒章	慈愛の心深く、節約して窮民に食糧などを施し、一人で生活できない者には住む場所を与えるなど顕著な功績を残した。
おかだ すみこ 岡田澄子	昭和47年11月29日 (1972年)	勲七等宝冠章	社会福祉法人陽風園の寮母として老人の介護に努め、老人の生活福祉の向上に尽くした。
このう よしこ 古納芳子	昭和47年11月29日 (1972年)	勲七等宝冠章	社会福祉法人陽風園の寮母として老人の介護に努め、老人の生活福祉の向上に尽くした。
とうだ か よ 任田の代	昭和48年4月29日 (1973年)	勲六等瑞宝章	長年にわたり陽風園の寮母として、精神薄弱者および老人の介護に努めた。
はしもと ときお 橋本外喜雄	昭和49年11月3日 (1974年)	勲五等双光旭日章	長年にわたり社会福祉事業に従事し、老人、児童などの保護育成指導に尽くした。
よこた とみ 横田 富	昭和54年11月3日 (1979年)	勲七等宝冠章	特別養護老人ホームなどの看護婦として職務に励み、施設運営の適正化と後進の指導育成に努めた。
よしむら としろう 吉村敏郎	昭和58年11月3日 (1983年)	勲七等青色桐葉章	長年陽風園の救護施設指導員、特別養護老人ホーム指導員として地域の福祉向上に尽力した。
まつだ かずこ 松田和子	昭和61年11月3日 (1986年)	勲六等瑞宝章	多年にわたり精神薄弱者更生施設などの看護婦として業務に精励し、地域の社会福祉の向上に尽力した。
ながかわ としあき 中川利昭	昭和63年11月3日 (1988年)	勲六等瑞宝章	長年にわたり、養護老人ホームなどの指導員として職務に精励し、地域の社会福祉の向上に貢献した。
かとう すみこ 加藤澄子	平成9年4月29日 (1997年)	勲六等瑞宝章	養護老人ホームおよび特別養護老人ホームの寮母として、入所者の処遇向上などに貢献した。
せきざわ すすむ 関澤 進	平成10年4月29日 (1998年)	勲六等单光旭日章	長年にわたり、福祉施設職員として職務に精励し、地域福祉の向上と障害者の社会復帰に貢献した。
このう よしお 古納義雄	平成11年11月3日 (1999年)	勲六等瑞宝章	長年にわたり、福祉施設職員として職務に精励し、知的障害者の社会復帰と高齢者の福祉向上に貢献した。
やまだ なつこ 山田夏子	平成13年4月29日 (2001年)	勲六等瑞宝章	福祉施設の主任寮母として職務に精励し、知的障害者の社会復帰と高齢者の福祉向上に貢献した。
でぐち とよこ 出口豊子	平成14年4月29日 (2002年)	勲六等宝冠章	福祉施設の寮母長として職務に精励し、入所者の処遇改善などに尽力し、高齢者の福祉向上に貢献した。
たむら ひろこ 田村弘子	平成16年4月29日 (2004年)	瑞宝双光章	第三万陽苑で主任寮母を務め、高齢者の福祉の充実に意を注いだ。
ながかわ よしと 中川義人	平成21年11月3日 (2009年)	瑞宝单光章	ハビリポート若葉副施設長として職務に精励し、障害者福祉に努めた。
どい ともち 土居友子	平成22年11月3日 (2010年)	瑞宝单光章	第三万陽苑の施設長補佐として職務に精励し、福祉医療に貢献した。
どい きみよ 土居公代	平成23年6月18日 (2011年)	瑞宝双光章	万陽苑副施設長として職務に精励し、福祉の向上に貢献した。
すえだ さちこ 末田佐智子	平成23年11月3日 (2011年)	瑞宝双光章	第二万陽苑副施設長として職務に精励し、入所者の福祉向上に努めた。
たかの よしこ 高野良子	平成25年11月3日 (2013年)	瑞宝单光章	長年にわたり、介護職などに精励し、高齢者の福祉向上に貢献した。

で、利用者さんの精神的な部分を支えていけるよう頑張っています。これからも、利用者さんにはいつも笑顔で元気でいていただきたいので、元気に働きたいです。

嵐 障害者施設のハビリポート若葉で働いています。ここには、さまざまな方が入所されているので、その人に合った必要な支援や介護をしていきたいと考えています。高齢化が進み、介護が必要な方も増えてきているので、介護の技術もしっかりと身につけたいです。それに、どちらかと言うと精神的な介護の方が大事なのではないかという思いが最近強くなってきました、しっかりと向き合って精神的にも技術的にも支援をしていきたいと思っています。

中嶋 平成24年4月から木曳野が開設されました。本来、養護老人ホームは、自立した方が生活して

いる施設なのですが、利用者さんが何年も生活をしていますと、日常生活動作（ADL）が落ちてきて重度化していく傾向があります。ですので、介助が必要な方が半数ぐらいを占めていて、程度に合わせてその方らしい生活ができるよう自立支援に日々努めています。

栄田 あけぼの作業所で勤務しています。ここは就労継続支援B型事業所として、障害者や知的障害者の方が作業を通して自立を目指す施設です。職員は、支援員という「支援」と言葉がついていますが、普段からそういう言葉を意識して仕事をしているのかと考えた時、「どうなのかな」というのが実際のところ。職員と利用者は本来、平等であるべきだと思っていますが、どうしても上下関係みたいなものができてしまっていますね。やはり、平等な関係でお互いを支え合

うことこそが、支援だと思います。画一的なサポートではなく、その人に応じた支援をしていくことが将来的には必要だと感じています。

府中 まず頭に浮かんだのは「利用者主体」です。認知症の方が多い万陽苑のフロアに勤めています。認知症の方は、周りからするといわゆる「問題行動」があるかもしれないが、その方なりの理由や生活歴、暮らしてきた家庭、環境が反映された行動なんだと、強く思うことがあります。ですから、問題のある部分だけを見るのではなく、その人のバックボーンなんかを含め考えて対処していくようにしていきたいと思っています。

篠原 三陽ホームで働いています。ここは生活保護の施設で、障害をもっている方、特に精神的な障害で通院されている方が多いです。年々、ADLが重度化し



■ 総務課

中森 隆則

てきて、介護の度合いも高くなってきました。ですので、特に精神面をケアしていくことがとても重要だと思っています。利用者さんにかけた、ちょっとした簡単な一声がきっかけで一気にうつになったり、気持ちが沈んでしまったりすることがありますし、逆に何気ない一声で落ち着いたりもするので、すごく注意してケアするようにしています。利用者の自覚のない悪い行為については、どのようにして悪いということを伝えるのか、そして、悪いと分かっているにもかかわらずしてしまうという利用者さんの気持ちをどう汲み上げて支えてい



生き生きフォーラム

日本最古の福祉施設として、地域とともに歩んだ140年。
現場を支えてきた職員は、何を考え、どんな目標を掲げて利用者に向き合っているのか。古参若手職員10人に、陽風園の思い出や理想とする福祉の姿、仕事に対する使命感などを語ってもらった。

対等な関係でお互いを支え合う 一人ひとりの心に寄り添った支援・介護

佐伯 140周年の記念フォーラムとして、皆さんにお集まりいただきました。皆さんから意見を出し合い、良い方向にもっていければと思います。まず、『支援・介護について』から意見を一人ずつお願いします。

山本 保育士という立場からお話します。子どもの成長を支援することが一番だと思いますが、最近では親御さんの支援も大切だと感じています。核家族化の中で親の負担が大きくなってきています。みずき保育園では「ひなたぼっこ」という会を開いています。園内の親子だけでなく、地域のお子さんと親御さんが一緒に遊ぶ機会を設けたり、そこで悩みを聞いたりしながら親御さんの支援しています。

全てをしてあげるということが支援ではありません。自分で成長しようとする力を見守ったり、支えたり、声をかけたり、年齢に応じた適切な支援が大切だと思っています。親御さんの支援には、子育ての負担を軽減させて、子育てを楽しめるように導くとともに、悩みがあれば、お話を聞いたりしてサポートするというポジションを崩さず、自分で悩みを解決できるようなことが大切だと感じています。

大平 養護施設で働いています。技術的なことはまだ勉強中ですが、私が今、心がけているのは、自分が生き生きと笑顔で元気に働くことで利用者さんが笑顔になり、元気が出ると言っていただけの支援

くのかということは今、意識して仕事に取り組んでいます。これからも一言が利用者さんに大きな影響を及ぼすことを意識し、介護を続けたいと思います。

小村 第二万陽苑で働いています。この施設では、自宅で生活することが困難になった方や、ご家族の方が家では面倒をみれないということでご入所される方が大半です。

全国的にも珍しい複合施設 さまざまな資格に挑戦したい

佐伯 今、皆さんから意見を聞いて、それぞれの施設の現状や取り組んでいる内容が分かったと思います。それぞれ働いている年数は違いますし、思いや技術的な面も全く異なると思うのですが、次に『現在の自分を見つめて働くということ』を話してもらおうと思います。お願いします。

慣れ親しんだ自宅から施設へ入るとき、寂しく悲しい気持ちで入られる方が多いです。そういう利用者さんたちが、自宅にいるような安心した気持ちで過ごせるよう、行事や楽しいことをいろいろと行おうと、職員みんなでいつも考え、心掛けています。その人その人の気持ちに寄り添った介護をしたいと思っています。

中嶋 養護老人ホームの向陽苑の勤務になって初めて介護を学び、勉強させられ考えさせられる日々を過ごし、10年が経ちました。向陽苑ですっと働いてきて、一人ひとりの思いを全て受け入れるのは大事だと思いますが、全てを思い通りに対応してあげられなくて胸が痛くなります。今でも仕事をこ

中嶋 養護老人ホームの向陽苑の勤務になって初めて介護を学び、勉強させられ考えさせられる日々を過ごし、10年が経ちました。向陽苑ですっと働いてきて、一人ひとりの思いを全て受け入れるのは大事だと思いますが、全てを思い通りに対応してあげられなくて胸が痛くなります。今でも仕事をこ

栄田 漠然としたもので、明確な目標を持ちたいです。

佐伯 ありがとうございます。次は府中さん。

府中 他のフロアの利用者さんたちと顔を会わせた時、「あんたどこにおったがあ？」とか「元氣やったかあ？」とか、声を掛けられると素直に嬉しくなりますし、利用者さんにサービスを提供する立場ですが、結構、たくさん元気をもらっていると、今の職場について感じていることです。働くについて、最初のテーマで挙げた「利用者主体」が、頭の片隅では大事だと分かっていても、一方的に危ないと判断したりして、認知者の方の行動を抑制することがあります。そのときに立ち止まって考えると、「利用者主体」の考えが頭から離れてしまっているなど反省することがよくあります。



第二万陽苑

小村 真由美

篠原 働いて今年で9年目になります。最初の5年間は第三万陽苑でした。専門の知識を学ばずに働き始めたので、何もかもが初めてという状態でした。精神的に辛くて「やめたい」と思ったときもありました。でも、毎日顔を合わせて家族のようになっている職員が辞めてしまえばショックを受けたり、見捨てられたと捉える利用者さんもあると思います、責任を持って続けようという意欲が出てきました。これまで身につけてきた技術や知識は財産となっていますし、利用者さんのために活かして仕事を続けていきたいと思っています。



向陽苑木曳野

中嶋 育恵

なしていくだけの日々が続いていますが、最近では中堅職員として後輩を教える立場を自覚し、自分の知識を高めて成長していかなければいけないと感じています。

佐伯 向陽苑でしか働いたことがないのでですか？

中嶋 はい。

佐伯 異動されたことがない方はほかにいらつしやいます？ 半分以上ですか。その施設しか知らないのと、固定されているという思いになるでしょう。陽風園の良いところは、特養、養護、障害、救護施設、ほかに在宅、保育園といろんな施設がある点だと思います。複

小村 第二万陽苑で働いて丸3年経ちました。以前は事務職をしていましたが、一生続けていける仕事はないかと探して今の仕事に巡り合えました。事務職とは異なり、1日が本当にめまぐるしく過ぎていくのですが、毎日がとても充実しています。日々時間に追われている中で利用者さんとの関わりを深めることができず、本当に申し訳ないと思っています。もう少し自分に時間や余裕があれば、お話も聞いてあげられるのですが、なかなか思うようにできていません。私の課題として、なるべくお話を聞いてあげられるよう努力していきたいと思っています。それにスキルアップのためにいろいろな資格にチャレンジしたいと思います。**山本** みずき保育園に勤めて6年目になります。勤めはじめのころは、仕事内容や子どもを知ること

合施設があることは全国的にも珍しいでしょう。自分が働いているところしか知らない方でも今後は異動があると思うので、いろいろな経験を積んでほしいです。

栄田 現在の自分を見つめてといえますか、働くことを少し考えてみました。働いて18年目になります。これまでに、向陽苑にハビリポート若葉、三陽ホーム、あけぼの作業所と働いてきました。働くことは、利用者さんや職場の同僚、家族など自分の周りの人の役に立つこと、または、楽しくさせる、楽にさせることなのかなと感じています。自分で考えをもったうえで動いていかなければ、何の進歩もないと感じています。これからはそういうことを考えながら働いていきたいです。

佐伯 その目標は立っているんですか？

で精一杯の毎日でした。最近はややくゆとりができ、自分の思いを仕事に反映できるようになりました。遊びを考えたり、環境を工夫したりと日々を創っていくことがとても楽しいと思える仕事をしています。働くことは、生活を送るためという理由はもちろんですが、保育の仕事にとってもやりがいを持ち、自分を成長させるために大切なことだと感じています。これからたくさんの方のことを学びたいと思っています。

大平 好きなことをして働きたいと思って、最初は料理人を目指していました。それから介護の職に就いたのですが、日々追われている感じがして息が詰まりそうになることもいっぱいありました。だけど、利用者さんの笑顔を見ると、この仕事をしていて本当に良かったと思えるようになってきたので、



■ 第三万陽苑

佐伯 真由美

これから頑張りたいです。介護福祉士やケアマネージャーの資格にも挑戦したいです。

佐伯 すごいですね。未来が開けている気がします。

嵐 今年で3年目になります。3年間ずっとハビリポート若葉の同じフロアで働いていますが、最近、ようやくほんの少しですが心に余裕が出てきたように思います。

学校が福祉系で、仕事内容に関してはなんとなく想像はついていますが、やっぱり現場は想像を超える厳しさがありました。1年目、2年目は、とにかく業務を覚えることと、それを実践することとで精一杯でした。最初のころは「接しなきゃいけない」という気持ちで接していたのですが、最近は、洗濯物を配りながら、「今日は天気いいね」とか自然に声をかけられるようになってきました。

されていました。一番多いですね、人数的に。そのころは措置制度で、オムツを換え、ごはんを食べさせ、お風呂に入れてという仕事を中心で、身体拘束もしていました。今は資格を持った介護職員でしかできない吸たんもしていました。してはいけないことでしたが、医療的なこともしていました。

16年9カ月間、特養にいたのですが、介護保険制度が始まった時期は特養から離れ、ハビリポート若葉にいました。その後、3年間は向陽苑でした。向陽苑にも重度の方もたくさんいて、ほとんどの方が支援を必要としていました。



■ ハビリポート若葉

嵐 舞香

ときどき、支援員としての自覚を忘れ、感情で怒ってしまうことがあります。それで心掛けようと思っているのは、待つことも大事なことです。例えば、「トイレに行きましょう」と声をかけても「行きたくない」と言われる方を、最初のころは無理やり連れていったこともあったのですが、最近では、「分かったよ。気が向いたらおいで」と言うようにしています。自分に余裕があると、利用者さんに対する接し方にも優しさが出ると思うので、これからも気を付けたいです。

佐伯 府中さんは働いて3年目とい

う点で同じですね。今の話しを聞いてどうですか？

府中 ゆとりがだんだん出てきたというのはよく分かります。

佐伯 働きはじめたころに比べてゆとりが出てきたのですか？

府中 そうですね。慣れたといえ

天皇・皇后陛下が行幸職員と利用者がおもてなし

中森 『支援・介護について』と『現在の自分を見つめて働くということ』について話をしてもらいました。今までの話を聞き、皆さんそれぞれにいろいろな思いを持ちながら介護支援をされていることが十分理解できました。10年前と現在、これから先についても少し話をしたいと思います。

就職したてのころは、学校で学んできたことと現実のギャップがあったんでしょうね。思ったよう

ば、その一言に尽きるかもしれません。覚えることで精一杯だった最初のころに比べると、業務だけではなく一人ひとりと向き合っ立ち止まり、何でかなと考えたりする点は1年目、2年目に比べてできるようになったと思います。

にならないということと泣いていた方の話もたくさん聞きました。どんどん成長して今は介護長になっている方もいます。みんなもそういう経験をしてくるってことですね。

少し昔のことといったら失礼ですが、栄田さんや佐伯さんから、10年前の介護状況について話してもらいたいです。

佐伯 第二万陽苑開設時に採用されました。当時は多くの人が採用



■ あけぼの作業所

栄田 和也

いうイメージできたのですが、言葉は悪いですが「収容所」というイメージを持ちました。向陽苑が最初の職場でした。私は今という相談員でしたが、ハビリが新しくできたとき天皇・皇后両陛下が行幸されました。向陽苑の利用者の方

20〜30人と一緒にハビリの前の竹やぶにゴザを敷いて、両陛下をお迎えし、お見送りした思い出があります。利用者さんについて、ふと思いついたのが、私の入ったころはもう少し和気あいあいと、利用者さんと職員同士、本当にラフな感じで何でも言えるような印象を受けました。それがおそらく介

護保険でいろいろと制度が複雑化し、やらなければいけない業務が多くなってきた、そういう雰囲気は少しずつなくなってきたんじゃないかと感じています。

中森 先ほど第二万陽苑開設とおっしゃっていましたが、私も実はオープンした昭和60年4月の採用です。最初、あけぼの作業所があるところに建っていた若葉ホーム(現・ハビリポート若葉)で指導員として4年間勤めていました。ほとんどが畑仕事で、その当時は寮生さんと言っていた利用者さんと一緒に畑へ行き、キウウリやナスビ、トマトを作っていました。

その後、万陽苑の相談員になったのですが、当時の万陽苑は320人もの入居者がいました。先ほど栄田さんがおっしゃったようにある意味、収容というようなものがあったかもしれないですね。お

風呂は“陽風園式循環浴槽”と言って、3人ほどの利用者さんが浴槽に並び、順番にベルトコンベアのように横にずれて流れ作業のように入浴していきます。途中の真ん中の方は早く上がりたいと思って上がれないんですよ。順番がありますので。

佐伯 あと、部屋が8人部屋でしたよね。

中森 そうでしたね。今、万陽苑が中規模生活者単位ということでやっているかもしれませんが、私がいた当時は5寮ありました。それぞれの寮に食堂があって、今の

時が流れても変わらない介護の心 築き上げてきた信頼関係を守る

中森 次のテーマに移ります。最後は『未来に向けて伝えたいこと』です。つまりいたりした時の対処法なども含め、これから採用する



万陽苑

府中 裕美

いです。

府中 10年後の介護、介護保険はどうなっているのか想像が付きません。介護施設に自ら望んで入所される方は少ないと思いますので、利用者さんが少しでも安心して心地よく暮らしていけるように頑張りたいです。この仕事は、生活を支援するというのが大きな役割だと思います。利用者さんにもそれぞれの生活歴がある中、専門的な知識を勉強するだけでなく、例えば家事だったり誰かとコミュニケーションをとったりと、日々生活していく中で支援とか援助に活かせることがいっぱいあると思うの

万陽苑のようなことをしていました。その後、新館、旧館と言っていたのですが、2寮に分かれてやったこともあります。そういう時代だったんでしょうけど、ベッドから離れてご飯を食べる“離床“というような、いろんな初歩的なことから私もスタートしました。

私は福祉系の学校を出ておらず、最初は若葉ホーム（現・ハビリポート若葉）で治療教育士の資格をとりました。平成元年に介護福祉士法と社会福祉士法が施行され、資格取得が必要な時代になってきました。

後輩に話をしてもらいたいのですが、どうでしょう？

佐伯 新しく採用される方に、伝えていきたい思いでも良いですし、

で、アンテナを張っていきたいです。

栄田 今、陽風園の改築が進んでいて、本園を中心にハード面が整備され、約5年後に完成というのはとても良いことだと思っています。障害者関係でずっと働いていると、年々障害者の方が増えていくと実感しますし、と同時に社会では超高齢化社会がますます進んでいます。そんな中、民間業者の参入など競争が激しくなってきた、他との区別できる支援や経営をしていかなければいけないことを一人ひとりが分かったうえで、日々働いていかなければいけないと感じています。職種ごとの仕事だけでなく、全体的に支援・経営を含めた職員教育を考えていくことが必要だと思っています。そうしなければ負けてしまうのではないかという不安感がありますし、「やらなんな」という意欲も同時に出てき

10年後どうなっていたいか、今からどうしていききたいかという思いでも良いのでお願いします。

小村 現状は職員の数が足りなくて、日々の業務をこなすことで精一杯で思うようにできていません。これから時間のゆとりを持てるときは、利用者さんとたくさん関わり、その方たちがどう過ごしてきたのかという背景を把握し、一人ひとりに寄り添った介護ができるよう研鑽したいと思っています。

篠原 介助補助の機械が開発されたり、外国の方が資格を取って日本で働くことができるようになったというニュースを見ていると、これからどうなっていくのか見当が付きません。例えば、外国の方が入るなり、機械の力を借りるなり、どれだけ忙しくて作業的に見える仕事だとしても、利用者さんに介助している側の気持ちが必要伝わ

ています。なんてたって歴史ある陽風園です。未来に向けて広がっていきけるよう頑張りたいです。

中嶋 向陽苑木曳野へ異動する前は、一日のほとんどが配膳業務に費やしていて、利用者さんに関わる時間がほとんど取れない状態でした。利用者さんが話しかけてきても「ちょっと待ってね」という対応ばかりでした。木曳野に異動してから、食堂業務の時間が大幅に短縮され、余裕ができ利用者さんと関わる時間も増えたと思うのですが、介助の必要な方ばかりに時間をかけてしまい、自立される方とゆっくりお話できていない

ています。なんてたって歴史ある陽風園です。未来に向けて広がっていきけるよう頑張りたいです。

るように感情を込めて仕事をしていければと思います。

例えば、忙しくてちよつと手順を省いても、利用者さんが「しょうがないな。でも、あなたの気持ちには伝わってきていますよ」と思ってもらえるぐらいに心を込めて仕事をするのが大事になっていくと思います。これから機械やパソコンが業務に導入されるに伴って、介助を受けている人の気持ちに分かりにくくなってきていますが、そういう中でも利用者さんに「あなたのことをお世話してますよ」という気持ちが伝わるぐらい思いを込めて仕事に取り組んでいき



向陽苑崎浦

大平 太一郎

のが残念です。10年後の未来…、陽風園の信条に『対話こそが奉仕の原点』とあるように、介護や支援するにあたって、コミュニケーションが一番大切だと考えています。10年間働いてこられたのも、先輩、後輩に助けていただいたり、利用者の方が孫のように接してくださった中、陽風園が築き上げてきた信頼関係のおかげだと感じています。

嵐 ハビリポート若葉だけに限らないと思うのですが、利用者さんにとってここがきつと最期の住む場所になるでしょうから、ターミナルケアがこれから導入されていくと思います。これから10年20年と暮らしていく中で安らぎを感じてもらえるように、支援していけたらいいなと感じています。

陽風園全体の未来に向けてですが、社会に出るための自立した支

援というのが今の社会できつと言われていることだと思います。特養や保育園や作業所、障害者関係といった、たくさんの方があるこの法人だからこそ、できることがあると思うので、そういった面を活かすことができれば、これから先、他の業種や民間が参入したとしても差別化が図られると考えています。利用者の方が元気であるためには働く側が元気でいなくてはいけないと思うので、自分を大切にしていきたいです。

子育てがしにくい環境になっていくと思います。親が抱える問題も多様化し、そんな問題に柔軟に合わせた保育や親支援、子育て支援が必要になると思います。環境が変わっても、大切なことはずっと変わらないと思うので、今では少なくなっている子供の五感を刺激する活動や人と人との触れ合いがある保育は、今後も大切にしたいと思っています。

また、子どもと高齢者が関わる機会が減ってきていると感じています。みずき保育園の近くには木越デイサービスがあり、時折、4歳児の子どもと訪問しています。

山本 10年後になると子どもを取り巻く環境は、ますます悪くなり

未来への提言

本誌の編集を機に、記念誌編集委員会では陽風園の未来について意見を交換し、理想とする将来像を考えてみました。委員は介護支援、地域、建物、職員、利用者、夢の6つの項目ごとにアイデアを出し合い、「道の駅をつくる」「家族だけで一日中過ごせる施設がほしい」など思いのたけを語りました。最終的には、「誰もが集える“陽風タウン”」として意見をまとめ、委員は地域に根差した陽風園に向けて気持ちを新たにしました。



■ みずき保育園

山本 夢子

訪問すると、お婆ちゃんが泣いて「ありがとう、ありがとう」って言うてくださったり、「子どもがプレゼントしたものを玄関にたくさん飾っとるんやわ」というお話をしてくださったり、子どものほうも待っていてくれる方がいることで、とても楽しみにしています。

お家では高齢者と関わる機会がなかなかなく、子どもにも利用者さんにも大事な機会になっていると感じています。今後ずっと大切にしていきたいと思っています。

佐伯 皆さん、ありがとうございます。私も上に立つ身として、職員の気持ちをちゃんと汲み取り、一言一言を発していかなければいけないと思います。栄田さんが言ったように今、だんだんと世の中が厳しくなっています。万陽苑の方もフロア化で大変でしょうし、入所関係でもなかなか入所に繋がらなかったり、介護面ではゆとりと言われていますし、来年度の4月からは夜間帯のナースがいないオンコールが導入されるというところで、今後介護職員や現場の職員の皆さんには、医療的なことと責任、技術的な知識が求められると思います。

私が未来に向け伝えたいことは、時代は流れますが、根本的な考えは昔と変わらないということです。介護をするという気持ちを常に忘れず、利用者さんが安心して生活ができるような空間を作っていくことが一番大切だと思います。今日は初めて会ったばかりで、緊張しましたが、皆さんの意見を聞くことができてよかったです。一緒に頑張っていきましょう。

今日はありがとうございました。

本園改築整備計画

1 目的

利用者が安心して暮らすことができる快適な生活環境を整え、同時に職員にとって働きやすい環境に配慮した職場づくりを進める。

また、高齢者や障害者が生き生きと生活することができる新たな支援の場を提供する。

2 これまでの主な取り組み

平成22年度	本園改築整備計画の策定、用地の取得
平成23年度	向陽苑木曳野(定員120人)の新築 向陽苑(定員240人)から入居者120人が転居
平成24年度	向陽苑崎浦(定員120人、厨房併設)の新築
平成25年度	管理棟(第一期分、診療所を含む)改築 三陽ホーム(玄関、事務室、浴室、医務室)の増築 三陽ホーム・あけぼの作業所の耐震補強

3 今後の重要計画

□管理指標：本園改築整備計画の遂行

目 標	
平成26年度	万陽苑ユニット棟の新築
平成27年度	万陽苑従来型棟の新築(2カ年事業) 管理棟(第二期分)の改築 地域福祉プラザ棟の新築
平成28年度	周景整備工事 等



本園完成予想図

陽風園役員名簿



顧問
奥 清



理事長
古田秀一



専務理事
永井信幸



理事
金原 博



理事
角間俊夫



理事
越田芳子



理事
池之上幸男



理事
北村哲志



理事
横山外茂二



理事
近藤義昭



理事
高田千恵子



監事
西村昭孝



監事
寺沢 宏



評議員
石田 豊



評議員
涌波秀博



評議員
眞館和博



評議員
山下公一



評議員
村島嘉孝



評議員
山河由喜枝



評議員
武田節子



評議員
佐藤伸也



評議員
山本壽嗣



評議員
河上 進



評議員
林 勇三



評議員
吉田一郎



評議員
松本孝観



評議員
山森太兵



評議員
新田龍人



評議員
村井輝邦



評議員
西 和喜雄



評議員
出戸秀治



評議員
木谷尚美



評議員
山本正直



評議員
宮本良子

陽風園概要

名 称	社会福祉法人 陽風園	■ 敷 地 総 面 積…89,247.02㎡	■ 建 物 総 面 積…43,500.95㎡
所在地	金沢市三口新町1丁目8番1号 TEL(076)263-7101(代) FAX(076)260-0635	本 園…21,811.01㎡ 第 二 万 陽 苑…22,675.89㎡ 第 三 万 陽 苑…14,419.79㎡ ハビリポート若葉・若竹…26,777.33㎡	本 園…19,268.04㎡ 第 二 万 陽 苑… 5,561.49㎡ 第 三 万 陽 苑… 6,228.00㎡ ハビリポート若葉・若竹… 7,786.46㎡
創 設	明治6年	ハビリポート若葉…20,779.21㎡	ハビリポート若葉… 6,610.02㎡
創設者	小野 太三郎	ハビリポート若竹… 5,998.12㎡	ハビリポート若竹… 1,176.44㎡
財団法人設立	明治39年10月29日	向 陽 苑 木 曳 野… 3,563.00㎡	向 陽 苑 木 曳 野… 4,656.96㎡

社会福祉法人へ組織変更
昭和27年5月9日

施設名称	電話番号	定 員	開 設
■陽風園（本園）〒920-0944 金沢市三口新町1丁目8番1号 TEL(076)263-7101(代表)			
養 護 老 人 ホ ー ム 向 陽 苑 崎 浦	TEL(076)263-7691(直通)	120名	昭和38年 8月1日
特別養護老人ホーム 万 陽 苑	TEL(076)263-7692(直通)	190名	昭和40年 1月1日
・老人短期入所事業 万陽苑短期入所サービス	TEL(076)263-7692	9名	昭和55年 4月1日
救 護 施 設 三 陽 ホ ー ム	TEL(076)263-7693(直通)	100名	昭和29年11月1日
就労継続支援B型施設 あ け ぼ の 作 業 所	TEL(076)263-7694(直通)	40名	平成 8年 4月1日
診 療 所 陽 風 園 診 療 所	TEL(076)263-7104(直通)		昭和24年 4月 8日

■第二万陽苑 〒921-8046 金沢市大桑町中ノ大平18番地25			
特別養護老人ホーム 第 二 万 陽 苑	TEL(076)243-0101(代表)	150名	昭和60年 7月 1日
・老人短期入所事業 第二万陽苑短期入所サービス	TEL(076)243-0101	10名	昭和60年 7月 1日

■第三万陽苑 〒920-1346 金沢市三小牛町24の3番地1			
特別養護老人ホーム 第 三 万 陽 苑	TEL(076)280-6781(代表)	150名	平成 5年 7月 1日
・老人短期入所事業 第三万陽苑短期入所サービス	TEL(076)280-6781	20名	平成 5年 7月 1日

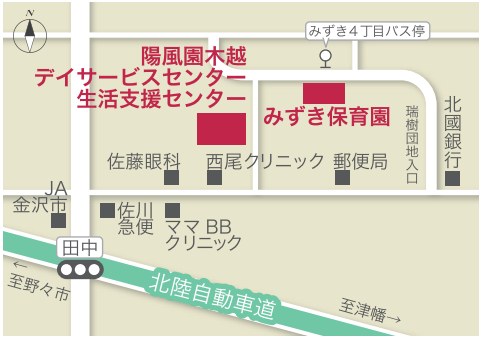
■陽風園地域福祉プラザ			
陽 風 園 地 域 福 祉 総 合 相 談 室	TEL(076)261-4165		平成25年 4月 1日
陽 風 園 訪 問 介 護 セ ン タ ー	TEL(090)7083-6943		平成 4年 1月 1日
木越デイサービスセンター	TEL(076)258-1418		平成17年 4月 1日
陽 風 園 デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー	TEL(076)263-7698		平成 8年 4月 1日
陽 風 園 生 活 支 援 セ ン タ ー	TEL(076)262-6858		平成11年 9月27日
陽 風 園 木 越 生 活 支 援 セ ン タ ー	TEL(076)258-1428		平成17年 4月 1日
金沢市地域包括支援センター みつくちしんまち	TEL(076)263-7163(直通)		平成 8年 4月 1日
サービス付き高齢者向け住宅ドゥ・リアン		15室	平成26年 6月 1日

■ハビリポート若葉・若竹 〒920-1341 金沢市別所町クの10番			
障 害 者 支 援 施 設 ハ ビ リ ポ ー ト 若 葉 ・ 若 竹	TEL(076)247-6787(代表)	若葉164名 若竹 36名	昭和39年 4月 1日 平成23年12月1日
・グ ル ー プ ホ ー ム ス タ ー ツ も み じ 〒920-0944金沢市三口新町1丁目7番20号	TEL(076)223-8418	5名	平成 6年 4月 1日
・グ ル ー プ ホ ー ム ス タ ー ツ あ お ば 〒920-0953金沢市涌波2丁目10番15号	TEL(076)232-5243	4名	平成 8年 4月 1日
・グ ル ー プ ホ ー ム さ く ら 〒920-0944金沢市三口新町1丁目3番25号	TEL(076)262-6553	7名	平成11年10月 1日

■向陽苑木曳野 〒920-0334 金沢市桂町4街区1番地1			
養 護 老 人 ホ ー ム 向 陽 苑 木 曳 野	TEL(076)268-6541(代表)	120名	平成24年 4月 1日

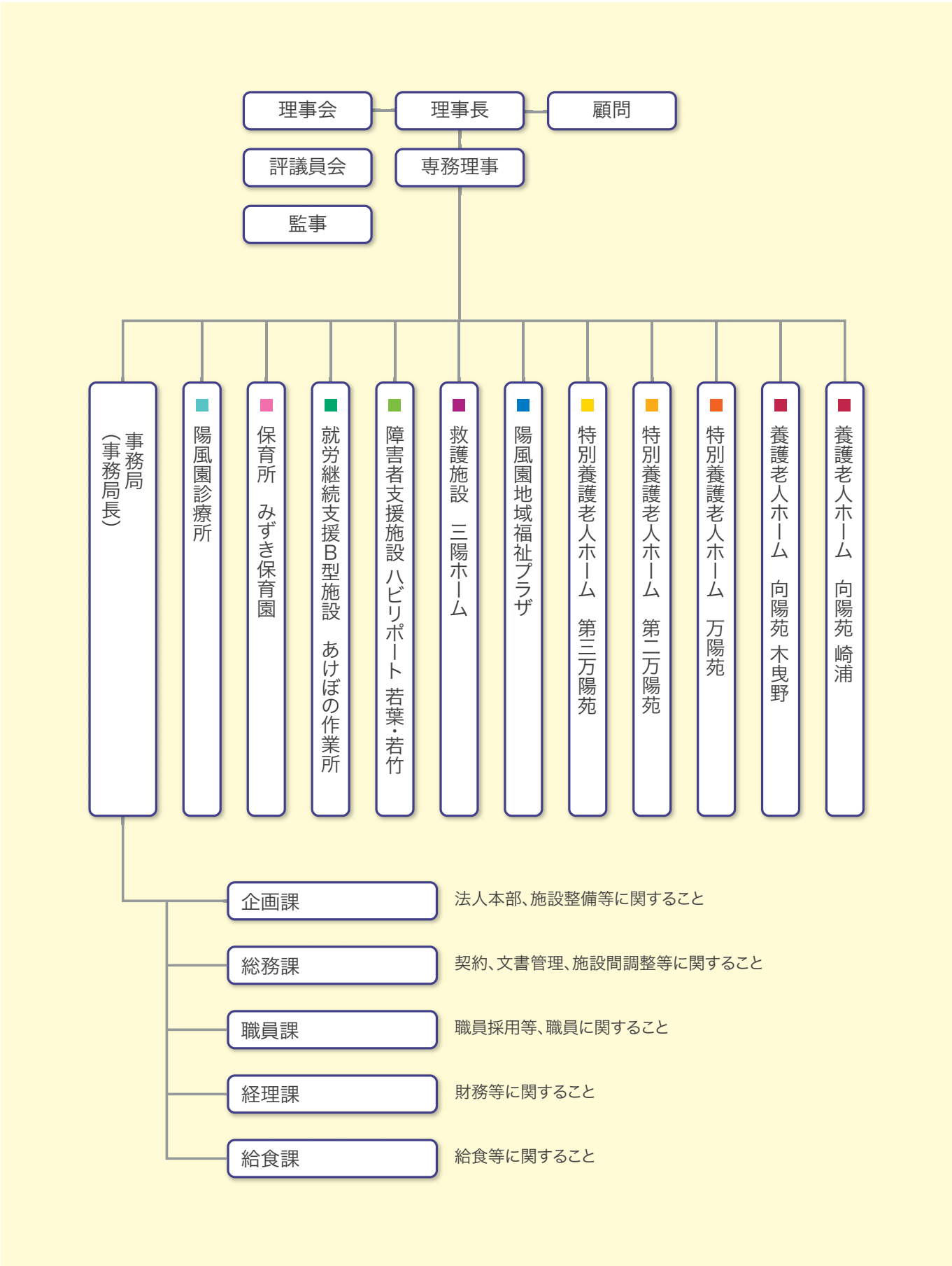
■みずき保育園 〒920-0201 金沢市みずき4丁目1番			
保 育 所 み む ぎ 保 育 園	TEL(076)258-2120	150名	平成17年 4月 1日

案内図



- 交通機関(バス)
- 陽風園(本園)
 - 金沢駅発 18 東部車庫行…花里住宅前下車(徒歩1分)
 - 金沢駅発 11 東部車庫行…錦町下車(徒歩3分)
 - 第二万陽苑
 - 金沢駅発 21 北陸学院前行…万寿苑前下車(徒歩2分)
 - 金沢駅発 23 小原行…万寿苑前下車(徒歩2分)
 - 第三万陽苑
 - 金沢駅発 25 小原行…内川小学校前下車(徒歩2分)
 - ハビリポート若葉・若竹
 - 金沢駅発 23 小原行…内川小学校前下車(徒歩7分)
 - 向陽苑 木曳野
 - 中橋発(金沢駅から徒歩10分)
 - 50 金石行・51 大野行・53 大野港行・55 からくり記念館行…西警察署前下車(県道 松任手ノ気線を金沢港方面に徒歩10分)

組織図



あとがき

陽風園の創設は明治維新後の動乱期の1873年に、園祖小野太三郎が私費を投じ金沢市木ノ新保に家屋一棟を購入し、これを窮民や浮浪者に開放し、その救済にあたったことが始まりであります。園祖の個人事業であった「小野救養所」から財団法人「小野慈善院」、「小野陽風園」そして社会福祉法人「陽風園」として福祉の道を一路邁進し、140年という長き歴史を迎えることとなりました。

現在、園祖の思いを具体化した「私たちの信条」に掲げられている仁愛の精神をもつて尽くすことを普遍の理念とし、質の高い福祉サービスを安定的に提供するため、到来する超高齢社会における福祉ニーズに的確に応え、社会福祉支援を必要とする人に適切にサービスを提供するとともに、地域福祉の向上に貢献して参ろうと思っております。

園祖小野太三郎の個人的な事業から始まった活動は、現在に至るまで様々な方々の協力・支援によって歩んでこれたものであります。今回この記念誌を編集するにあたり、園の「あゆみ」を過去・現在・未来にわけて表現しました。創成期においては、これまであまり陽があたってこなかった方々に再注目し、現在においては、改めて現状を認識し、未来においては、福祉社会・地域福祉を踏まえ編集委員たちの思いを陽風園の未来として表現しております。

今回の記念誌を編集するにあたり、関係者・関係機関の皆様にご多大なるご協力をいただいたことに感謝し、厚く御礼申し上げます。

記念誌編集委員会 一同

創立140周年記念誌編集委員会名簿

◇委員長

大森万寿夫(事務局次長)

◇副委員長

中森隆則(総務課長)

◇委員

中田映里(向陽苑崎浦)

池田 学(向陽苑木曳野)

島 好美(万陽苑)

山村卓也(第二万陽苑)

京平真英(第二万陽苑)

森澤 徹(第三万陽苑)

長野佐知子(ハビリポート若葉・若竹)

山下光司(三陽ホーム)

門谷美里(あけぼの作業所)

川辺枝里子(みずき保育園)

村先美緒(みずき保育園)

北 幸恵(地域福祉プラザ)

宮下睦美(地域福祉プラザ)

山森裕美(企画調整課)

河上知代(給食課)

越 亜維子(給食課)

吉田公史(企画課)

新木弘章(企画課)

山田正則(企画課)

※編集委員会在籍時の所属を記載しています。

社会福祉法人陽風園

創立140周年記念誌

平成26年5月24日 発行

編集 創立140周年記念誌編集委員会
発行 社会福祉法人 陽風園

〒920-0944

石川県金沢市三口新町1丁目8番1号

電話 076(263)7101

企画・制作

能登印刷出版部

印刷・製本

能登印刷株式会社



社会福祉法人
陽風園

140

仁・愛・心 時代とともに 地域とともに
Social Welfare Foundation **YOFUEN**